

UFO観測会特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

夜空に不思議な「U」の文字が出現

私の超能力開発と異星人女性との出会い
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快
神室山上空のUFO
モアイとUFOの島へ

UFO・異星人・地球人(完)

WINTER
1992

119



〈巻頭言〉テレパシー	1
夜空に不思議な「U」の文字が出現	久保田八郎 2
〈写真〉コルファックスの円盤	11
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い	佐々木八郎 12
ミシガン州の不思議な写真	17
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快	口ノ町一男 18
ミラクルワードとイメージ法で腰痛が急速に治る	穴原美智子 23
神室山上空のUFO	沼倉 孝彦 24
GAP短信	26
科学—SCIENCE	27
UFOとテレパシー交信に成功	渡辺 克明 29
大会開催中にUFOが出現！	32
秋田でもUFOが出た！	34
UFO・異星人・地球人(完)	G. アダムスキー 36
モアイとUFOの島へ	伊東 芳和 44
〈予告〉エジプト・イギリス宇宙ロードの旅	45
〈投稿欄〉ユーコン広場	46
本誌/バックナンバー掲載記事目録	48
〈予告〉長野支部大会	49
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2層の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は隠されていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉
1971年5月23日の12時30分、オーストラリア・シュタイエルマルクのドイッチュランツベルクで、ルディー・ナゴラ氏が奥さんとともに森の中を散歩中、上空からブーンという音が聞こえたので、見上げると、銀色の円盤型物体が木の葉運動みたいに上下動をくり返していた。彼が持っていたカメラでフィルム一本を全部使いきるまで写真を撮るとUFOは飛び去った。



UFO問題はあまりにも情報過多のために、何が真実なのかと迷う人が少なくないだろう。むべなるかな、人間のマインド（心）は四官（四つの感覚器官、すなわち視覚、聴覚、嗅覚、味覚）で形成されており、これらが各自勝手な判断を下して不調和な状態にあるために、人体内部に宿る『宇宙の意識』から来る正確な印象を感じてできないのだと『生命の科学』（新アダムスキー全集第三巻・中央アート出版社刊）は教示している。

つまり人間を生かす根源的なパワーは、宇宙の万物を生かしている『意識』であり、しかもこの意識は動物ばかりでなく植物までも生かしている宇宙的なエネルギーであるとアダムスキーは説いている。この『意識』なるものは人間の理解を超えた叡知をも含んでいる。そしてあらゆる動植物を意識的な実体に行っているのである。手っ取り早く言うと、植物も人間と同様に意識を持つ実体だということなのだ。

戦後、これについて科学的な研究を行なったのは、ニューヨークの科学者クリーヴ・バックスターである。彼は一

九六六年、ポリグラフ（俗にウソ発見器といわれる）の電極をドラセナの葉に取りつけて、葉が人間の想念感情に応えるか否かの実験を行ない、確実に反応することを立証した。

ある日、この実験を確認しようとしてカナダから一人の学者がバックスターの研究室を訪れた。だが五種類の植物を来訪者がテストしても全く反応は出なかった。六種類目のテストでバックスターは気づいて、学者にどのような研究をやっているのかと尋ねたら、植物をカマドに入れて焼き、その乾燥重量を得て、それを分析しているのだと答えた。つまり植物を殺す仕事をやっていたのである。

ところが学者があきらめて研究所を去ってから、植物は皆グラフに流動的な線を描いて反応を再開したという。これでもって植物も明らかに人間の想念波動を感じていることがわかる。バックスターの植物反応実験は世界的に有名になり、日本でも編者の友人である橋本健理博士が二〇年以上昔にサポテンを試料にやっていた。

当時編者もテストしてみようと思ひ、事前に連絡して、ある日鎌倉の橋本氏宅を訪れたら、氏は浮かぬ顔をしている。理由を聞くと、そのサポテンは同家のお手伝いさんなら非常に良い反応を示すが、他の人ならダメだということがその日に限ってお手伝いさんが不在のために実験がうまくゆかない

というのだ。試みに編者が呼びかけても反応はなかった。人間をより好みするらしい。

とにかく人間の想念波動が空間を伝播することは多くの科学的実験で明白である。これでもってテレパシー現象の存在自体も間違いないことになる。本号掲載記事『私の超能力開発体験と異星人女性との出会い』も、偶然の結果では片づかない一種のテレパシー実験の反応であると言えよう。ここには明らかに因果関係を示す物理的な作用があると考えられるが、現代の科学ではまだ説明不可能である。

しかし人間は特殊な自己訓練によってテレパシーや遠隔透視力を開発出来ることは、前記の記事の筆者・佐々木氏の体験記で明らかである。実は氏以外にもテレパシー能力を開発した人が日本GAPの会員で何人かいる。この人たちはアダムスキー哲学、特に『超能力開発法』新アダムスキー全集第二巻）や『生命の科学』（同第三巻）を熟読して練習した結果、いわゆる超能力を身につけたのだ。ここにおいてアダムスキー哲学が宇宙的なティーチングを含んでいることがわかるだろう。それは宇宙の法則を含む永遠の真理とも言えるものである。

だが彼の宇宙的な体験や哲学的思想の発表はあまりにも時代を先取りしすぎた。現代科学が今頃になっても植物に意識があることを認めようとしな

状態だから無理もない。

アダムスキーによれば、原子核には宇宙のスパーク（活気）が存在するという。そうなると原子も意識を持つ存在であり、それはすなわち宇宙の創造主の顕現したものであると言えるだろう。こんな表現は宗教的だと一笑に付されるかもしれないが、実は異星人のフーリングはここまでのレベルにあるというのが真相らしい。したがって彼らはあらゆる生物はいうまでもなく、いかなる無生物でさえも意識ある生き物とみて、自分の肉体のような尊重感を持つという。これは超高度な万物一体感にほかならない。だからこそ彼ら異星人はテレパシー、遠隔透視、その他の超常現象的な能力を有するのであるとアダムスキーは述べている。

これが夢物語でないことは、前述のように超常能力を開発した人が複数いることでもわかる。

来世紀、地球は宇宙時代に突入するという。これは我らの太陽系の他の惑星群に大文明が存在することを大政府が公表することによって真の宇宙時代を迎えるという意味だが、その時期は西暦二〇一〇年頃であると信頼すべき情報筋から聞いている。

来世紀が楽しみだが、手をこまぬいて待っているのはもったいない。テレパシー能力を開発して、ルーサー・バークのように植物と語り合えるようになっておきたいものだ。（久）

A Large Mysterious Letter "U" Appears in the Night Sky
by Hachiro Kubota

夜空に不思議な「U」の文字が出現



★日本GAP本部主催 UFO 観測会報告

久保田八郎

見聞者 A T 録

今年の UFO 観測会は昨年と同じ神奈川県秦野市の栃窪台地で開催された。去る五月三〇日にこの場所で開催する予定であったが、当日はあいにくの雨のため中止し、捲土重来を期して時期を待ったが、幸い今夏八月は日照り続きで、これなら大丈夫とばかり、二九日の夕方から開始した。

今回は本誌に予告を掲載しなかった。これは、この土地に駐車場がなくて、道路脇に車をとめねばならぬので、大人数で殺到すると車で大混雑し、事故発生にもつながるからである。したがって、東京月例セミナーで呼びかけたのだが、口コミで伝わったらしく、当日は八〇名弱の参加者があり、車も四〇台近くが密集した。これでもかなりの混雑である。

UFO 観測には快晴がよい

事前に参加希望者には案内書が配布

してあり、その中に注意事項が記載してあるから、皆さん方はよく自制し、規則を守って紳士的な行動をとったために、きわめて調和した雰囲気のおかげで楽しく実施することができた。

この台地は標高約二〇〇メートルの草原地帯で、市街地からかなり離れているため、騒音で妨害されることはない。ただし夏草が高く生い茂っているので、足で踏んで平らにする必要がある。これは早目に現地へ着いた役員一同と数名の会員でならして、平坦にした。

昨年五月二五日にここで行なった観測会では素晴らしい UFO が出現した。詳細は本誌一一四号に掲載されている。会員の谷本英雄氏が見事に撮影された写真も掲げた。それをよく調べてみると、光体は自転しながら一直線に飛んでいることが分かる。これは絶対に飛行機、火の玉、その他の確認物体ではない。急速なスピードからみても人工

衛星でもない。結局 UFO だったのだ。そこで今年ももっと凄い光景を目撃しようと、多数の人が集まったのである。

ところが、あいにく二九日の現地は夕方頃から曇り空になってきた。雲が全面に覆いかぶさって、青空の部分が少ない。筆者が過去に数え切れぬほど行なった UFO 観測の経験からみて、空が晴れていなければ、UFO を目撃することはまず望み得ないと言える。

UFO (俗にスカウト・シップと呼ばれる円盤型宇宙船や葉巻型母船) にしても、雲の下まで降りて来ることはほとんどない。

したがって UFO 観測は昼間にせよ夜にせよ、空が晴れているときに限る。これが第一条件。もちろん例外もあるが、曇り空はほとんど期待できない。雨天はまずダメ。筆者はずっと前に土砂降りの雨の中を透明ビニールの傘をさして数時間も空を見上げていたが、

結局何も出現しなかったことがある。以来、雨の場合は中止することになっている。

ただしたまに例外はある。たとえば昔の名高いコニストン円盤といわれる事件がそうだ。

一九五四年二月一五日、イギリス・ランカシャーのコニストンで、当時一三歳のステイヴン・ダービシャー少年がアダムスキー型円盤を撮影して有名になったが、このときの円盤は雲の間から超低空に降下したのである。

少年が運よく持っていたコダックのカメラで撮影した写真は、イギリスの科学者のレナード・クランプが正射影法で分析した結果、アダムスキーが撮影した金星の円盤と全く同タイプのものであることが証明された。

この写真が発表されてから少年は論争とトラブルの渦中に巻き込まれ、大変な目にあつたらしい。ネガは紛失し、攻撃的になり、どうしようもない人

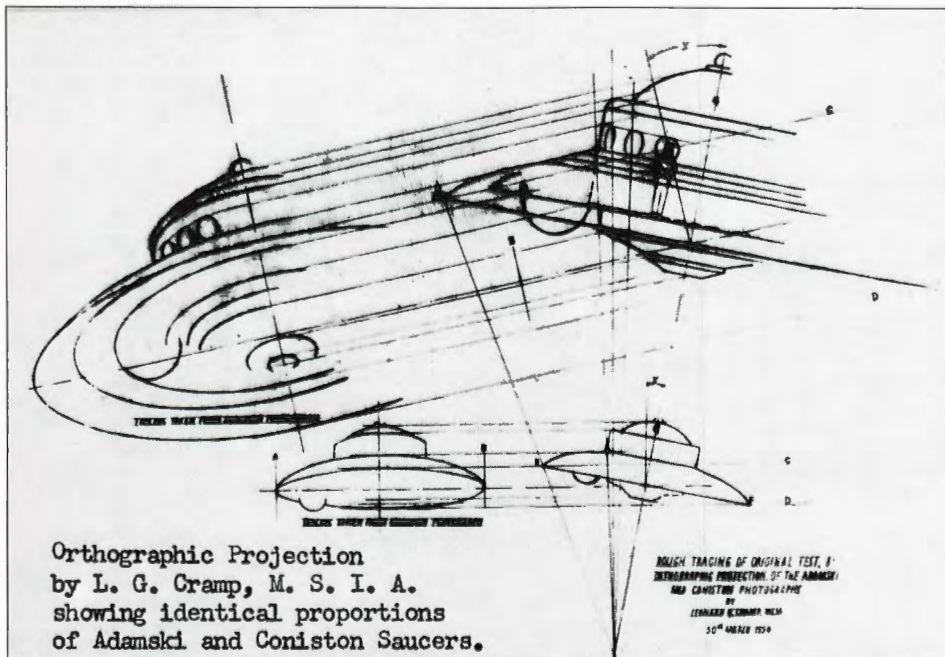


◀コニストン円盤

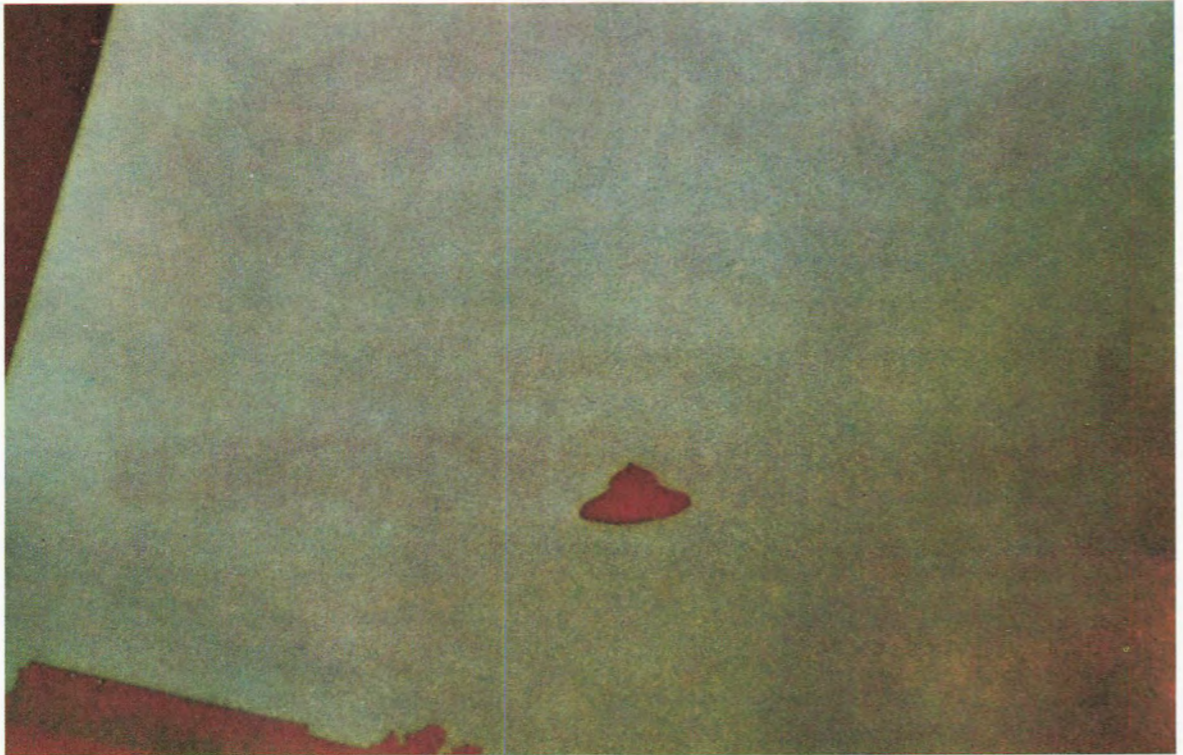
撮影/スティーヴン・ダービシャー



▲スティーヴン・ダービシャー(左)といこのエイドリアン・マイアー 撮影/デズモンド・レスリー



◀イギリスの科学者レナード・クランプがアダムスキ
撮影の円盤とコニストン円盤を正射影法で比較した図。



▲ 1974年11月11日、広島県尾道市の高校生・藤松和彦君撮影のアダムスキー型UFO。

生を歩んだと聞いている。健在ならば今は五一歳ぐらいになるはずだ。筆者は一度渡英して本人にインタヴューを試みようとして計画し、住所を調べたけれども、手がかりがつかめない状態にある。住所が判明しても、もう表面には出たくないという理由で会ってくれないかもしれない。

これは一九七四年一〇月一日の早朝、広島県尾道市の高校生・藤松和彦君がアダムスキー型の円盤と母船を撮影したケースと同様だ。数年前、久しぶりに同君に電話連絡したところ、お母さんが出られて、もうあの件には触れないことにしてくれと丁重に断わられた。やはり、いろいろあつたのだろう。筆者も丁重に挨拶して引き下がった。

余談だが、藤松君の撮影事件で関東方面からマスコミが雲霞のごとく取材に押し寄せたが、いずれもまるで土足で他人の家へ押し入るような傍若無人な態度であつたと聞いた（実際に土足で上がったのではなく、それに近い態度であつたという意味）。筆者が助手と共に取材に訪れたのは最後頃だったが、取材者としては最も紳士的で丁重だとお父さんが言っておられ、家族をあげてもてなして頂いた。考えさせられる問題である。

現在、藤松君は会社員として奥さんや子供さんと共に幸せな生活をしていると聞く。これは、そつとしておいてあげたい。

テレパシーで呼びかけること

さて、析窪の観測会は夕方六時半から開始した。司会者（篠芳史）の開会宣言の後、筆者が挨拶と注意事項を伝えた。

観測で重要なのは、たんなる興味本位でキョロキョロ空を見上げていたり、何も考えずにぼんやりと見つめるのは、まず成果はない。もちろん、世の中には、ふと空を見上げたら空中を飛ぶ不思議な物体すなわちUFOを目撃したという偶然の例はざらにあるけれども、私たちのように「見よう」という意志をもって一定の場所へ観測に行く場合は、それなりの態度が必要になつてくる。

ご承知のように、UFO（未確認飛行物体）は地球のものではなく、別な惑星から飛来する超絶した科学の産物としての宇宙船であると私たちは解釈しており、また、それに乗っている人間も精神的に地球人をはるかに凌駕した人たちで、特にテレパシーの能力に秀でているから、当然のことながら、地上からテレパシーで呼びかけるならば、それは必ず上空のUFOの搭乗者に届くのである。

テレパシー（精神感応）は実在する現象であつて、米ソでは科学者が昔からこの研究を行なっていることは周知の事実である。名高い実験例としては、

一九五八年の夏、アメリカの原子力潜水艦ノーティラス号を利用して壮大な実験が実施された。

米政府の委嘱によって、フレンドシップ市のウェスティングハウス社の特別実験室でデューク大学生スミスが送信者となり、二〇〇〇キロメートル離れた大西洋の深海に潜行している大型原子力潜水艦ノーティラス号の艦内にいる受信者ジョーンズ海軍中尉とのあいだにテレパシーの送受信実験を行なったのである。一六昼夜に渡って一日二回ずつスミスがゼナーカードの図形のイメージを送り、それをジョーンズが受信するという仕組みになっていた。

この実験は極秘裡に行なわれた上、あらゆる作業は徹底的に科学的な方法で進められた。

結果として、的中率は七〇パーセントという高率を示したのである。偶然



▲ゼナーカードの図形

による中の確率は二〇パーセントとされているのに、それをはるかにうわまわったのだ！

これにより、人間が放射する想念波動の実在が証明されたばかりでなく、

傍受されやすい電波にかわる最後の通信手段として米ソが研究にしのぎを削る結果になった(詳細は新水社刊『生物学的無線通信』、白揚社刊『テレパシーの世界』、中央アート出版社刊『超能力開発法』を参照)。

ただし、いまだにテレパシー現象の実在を認めようとはしないアカデミックな学者が多いようだが、これはいつの時代でも仕方ないことだ。昔、福来友吉博士が念写の実験により、人間の想念波動の実在を証明した結果、東大を追われた痛ましい事件が我らの記憶に残っている。科学の進展はこんなものなのだろう。

だがソ連の偉大なロケット科学の先駆者であるツイオルコフスキーは次のように述べている。

「やがて宇宙飛行の時代が来るなら、人間のテレパシー能力は、なくてはならないものとなり、人類の全般的な進歩に役立つでしょう。私とあなたとは精神的兄弟——つまり思想的同志——と呼ぶことができます」(『生物学的無線通信』新水社刊) これは一九三三年五月の発言なのだ。

話が横道へそれで申訳ないが、そういうわけで、UFOの観測には上空に向かつてテレパシーで送信することが先決である。人間の想念波動は二〇〇キロはおろか、別な惑星、別な太陽系、別な銀河系にまで一瞬にして到達するほどのエネルギーを有すると聞

いている。もちろん正統科学では未解決な問題だ。

上空に送信する場合、筆者のテレパシーによる呼びかけの内容は昔から決まっている。しかしそれを誰にも強制するわけにはゆかないので、各自適当な言葉を唱えればよいだろう。

しかし「UFOよ、出てこい、出てこい」というような横柄な言葉は避けるほうがよい。なるべく丁寧な言葉で唱えることにする。実際に声を出して唱えてもよいし、または心の中で唱えてもよい。いずれにしても、その想念波動は確実に上空のUFO人に届いているはずである。

夜空の一大パーティー

夜空を観測する場合、慣れた人と初心者では大差がある。まず道具立てとして必要な物は、双眼鏡、カメラ、方位磁石、懐中電灯、寒い日なら防寒具、手帳、筆記具等が必要となる。筆者の場合は温度計、高度計その他の七つ道具を携行する。

ずっと以前、静岡県で毎月一回、筆者と他に二人、計三人で夜間山中へ入りこんでUFO観測を多年続けていたことがあった。この件は内緒にしていたのだが、先般八月九日のIZU(伊豆)支部大会で、当時の仲間の一人であった高梨君(支部代表)が、その件を公表したので、もう話してもよいだ

ろう。

あの当時、筆者は冬山用防寒具一式を大きなバッグにつめて、常時高梨君の家に預けていた。筆者は身一つで電車で三島駅まで行き、そこから同君の車で山中の一定の観測場所まで直行する。そして現地まで服を着替えるのである。深夜までかなり長時間観測したもののだが、ときには物凄い光景を何度か目撃している。

あるときなどは夜空に沢山のUFOが出現し、縦横に飛び回って、まるで宇宙の花火大会というべき壮観を呈したこともあった。この最中には一機のオレンジ色の円盤が地上付近から垂直に火の粉を吹きながら上昇したこともあった。そのときはシューツという音まで聞こえたような気がする。

この凄まじい光景は、筆者が最初のアダムスキー全集の出版に踏み切った二日後であったと記憶している。たぶんスペース・ピープル(異星人)が祝福の意味で夜空に一大パーティーを展開されたのではないかと、あとで三人で話しあったものだ。

いつたいに筆者は子供の頃から身辺に不思議な出来事がよく発生していた。一九三五年、小学五年生の頃のある夜、田舎の我が家の裏庭からなにげなく近くの山を見ていたとき、突然、山の中腹に巨大な円形の光が照射されて、アツと驚いたことがある。

その光の円は直径約五〇メートルで、

円の輪郭が非常に鮮明であり、照射された部分の山腹は昼間のように明るくなった。その時間は約一秒の瞬間的なものだった。

子供心に、これは沖合に来た軍艦から放射された探照灯ではないかと思っただが、あとで考えてみると沖合の軍艦が接近できる距離から山までは少なくとも一万五千メートルはある。探照灯の照明距離は最大一万四千メートル。かりに届いたとしても、ビーム開きが一〜二度あるから、輪郭はかなりぼやけるはずだ。それに、何の目的をもつて陸地の山を一瞬だけ照らす必要があるのか。だいいち、この山は標高一〇〇メートルにすぎない。その間地上にかなり突起物があるのに、あのようなシャープな丸い光が照らされるとは、一体どういふことなのか？

今ならば上空の円盤からの強烈なサーチライト(?)という線も浮かんでくるのだが、当時はUFOのことなど知るよしもなかった。

上空からのテレパシーもキャッチする

話を元にもどすと、私たちは全員で観測態勢にはいった。昨年の観測では雑談がひどくなったので、筆者が大声で注意したのだが、今年は静粛にするようにと事前に案内書で伝えてあったので、皆さんはよく協力してくれた。写真のベテラン、谷本氏も奥さんと一

緒に見えていた。

観測時の姿勢については別に規制しない。とにかくリラックスすることが重要なので、なるべく疲れないような姿勢がよい。組み立て椅子に座ってもよいし、仰向けに寝転んでもよい。これはけっして不作法な格好ではない。昔から集団でUFO観測を行なう場合、直立の姿勢で大勢で両手をつないで輪を作りながら空を見上げることがよく行なわれたが、筆者の経験では、この方法は疲れやすいので今は採用しないことにしている。それに異性の手を握っていると心が落ち着かないだろう。なかには女性の手のひらにチョコチョコと指先で合図をする男もいるらしい。これでは気が散ってしまうようなまいだろう。要はどのような姿勢にせよ、真剣に大まじめに行なうことだ。

さらに重要なのは、テレパシーで送信するだけではない、上空のUFOから送られてくるテレパシーを受信するように努力することである。「本日は都合悪くて出現できません」とか「この場所は不適当ですから、どこそこの場所へ移動しなさい」というようなテレパシーが来ることがあるので、それを的確にキャッチすることも大切である。科学的な知識を持つて判断することも、もちろん重要である。夜空を飛ぶ物体を飛行機、気球、人工衛星、星、鳥、夜光虫その他の確認物体だと識別できるかどうかは訓練を要すること

あり、一朝一夕には識別力が身につかないけれども、慣れると次第に分かるようになってくる。

よく錯覚を起こすことだが、雲が動いているので、静止している星が相対的に動いているように見えることもある。このために今回ちよつとした騒ぎが発生したけれども、筆者は何も言わなかった。「あれは星そのものだ」という声があちこちで起こったからだ。

UFOが出現!

五時頃は快晴だったそうだが、現地は七時頃にかなり雲が広がってきた。なんとかして我々の頭上だけでも雲を散らせて星が見えるようにしようと、筆者は懸命に雲に向かって「おーい、雲さん、そこをどいてくれませんか」と強烈な想念を放射した。

雲はただの物質ではない。やはり意識を持つ生き物である。万物には皆意識があるのだ。これはニューサイエンスの思想を引用しているのではなく、あくまでもアダムスキー哲学の中心思想である。こちらの念力が強力であれば雲も散るはずだ。アメリカの大超能力者テッド・オーウェンは大嵐を静めたり起こしたりする能力を持つていたという。我々だって雲を散らすぐらいのことは可能なはずである。そのせいだろうか知らぬが、我々の頭上だけはなんとなく雲が薄れて少

し青空が見えてきた。そしてこの状態はずつと持続していた。

実はあとから分かったのだが、七時過ぎに遅れて来た佐藤(旧姓・富岡)設子さんと永山稔子さんの二人が、台地へ来る途中、東側の空に緑色の光体が大きく浮かんでいるのを目撃したという。だからこれでもって第一回のUFO目撃が行なわれたわけである。

七時過ぎ六分に、突然前方から清水正君とおぼしき声で「上空にUFOが右方へ飛んでいる!」という声が聞こえた。すわとばかり双眼鏡で見ると、確かに小さな光体が天頂付近を北から南の方向へ一直線に、すごいスピードで移動している。点滅しないし、だいたいこのスピードは絶対に飛行機ではない。

筆者はそばにいた人たちに知らせたが、肉眼ではとらえにくかったのか、大勢の叫び声はあがらない。見えた時間は約二〇秒だったろうか。

あとで聞いたのだが、筆者のすぐ後ろにいた田中淳君も見たという。あの微弱な光体を肉眼で見たとはすごく視力がよい。しかし全員が目撃したというケースではないので、いまひとつ盛り上がりがない。

昨年のような素晴らしい目撃事件は発生しないものかと、鶉の目鷹の目で全天を見回す。台地は無風で暖かく、快適な夜だ。巨大な母船でも出ないものかと目をこらす。



◀上は筆者の開会挨拶 田陣後方中央。右上の空に奇妙な光体が写っている。星ではない。撮影／松村芳之

▼秦野市栢窪台地におけるUFO観測会。



Uの字が現れる！

八時五五分頃、異様な光景が展開した。筆者のすぐ近くに例の佐藤さんと永山さん、それに仲間の篠崎典子さんの三人が立っていたのだが、篠崎さんが急に振り向いて、「あそこにUの字が見えますよ！」と言う。

見ると、北東の方向の黒い森のシルエットの上空に巨大な「U」の文字がギラギラ光っているではないか！

あまりにもシャープな文字なので、驚きのあまり一瞬声が出なかつたが、まもなく大声で東側にいた大勢の人に知らせた。一同はその方向を振り向いたが、そのときはすでに文字が崩れかかっていた。しかし「U」という文字が識別できないほどでもなかつたと思う。

だが、「U」の文字が最も鮮明に見えたのはほんの瞬間のことであつたし、それを確実に見たのは女性三人と筆者それに筆者の右側にいて一緒に見た堀江健一君の五名だけだから、これも結局、全員が不思議がるほどの大事件にはならなかつたようだ。残念である。

さらに筆者の左側で仰向けになつていた高梨君もUFOを一人で目撃したらしいが、筆者はそのときには気づかなかつた。

いったいに、UFO観測の初歩的な人は、アダムスキー型円盤そのものが

出現するのを期待するらしいが、そんなにはつきりした形のUFOを目撃することは、そうざらにはない。夜空ならばたいていは単なる光体にししか見えない。大きくてもせいぜい光球にみえる程度である。

しかし光体ばかりではなく、実はいろいろな記号めいたものも出現するのである。かなり以前、ユーコン誌を神田郵便局から全国向け発送するために遠藤昭則君の運転する車で蔵前橋通りを進行中、浅草橋付近で、突如、前方の空に「逆U」の字が出現したことがある。つまり「∩」のように縦に長い白い見事なスジが青空に見えたのだ。ジェット機が逆Uの字を描くように飛行したなら、地上に激突するだろう。後日分かつたのだが、これはスペース・ピープルからの祝福のサインだということだつた。

そういうわけだから、白昼だろうが夜間だろうが、空中に出るのはUFOばかりではなく、特殊な記号が何かの形で出ることがあるので、このことを知っておく必要がある。

異星人は現実の人間そのもの

UFO問題に関心のある人でも、UFOをよく目撃する人と、そうでない人など、いろいろタイプがあるようだ。

これは人間の持つ何かのカルマの相違または敏感さの度合、特にテレパシッ

クな感受力の相違等、いろいろな要素によるものようである。

またUFO側の配慮にもよると聞いている。たとえば、五、六名が同じ場所においてUFOが出現した場合、三人か四人の人には見えるが、他の人には全然見えないことがある。これはUFOに嫌われているのではなく、本人が恐怖心を起こしやすいか不信論者であるかを考慮した結果である。アダムスキーによれば、異星人は地球人の性格や心中を知りぬいているというから、恐怖心を起こしやすいい人のタメを思つて、わざと見せないような特殊な操作を施しているらしい。

彼らは地球人の想像を絶する科学力を持つており、光線の操作は自由自在であるから、空中にいる彼らの船体を瞬間的に消すこともできる。この場合、船体自体が消滅するのではなく、実際にはそこに存在しているのだけれども、光線を操作することによって、存在しないように見せかけているにすぎない。UFOでなくて人間の場合でも、たとえば、地上の誰かの眼前にいた異星人が瞬間的に姿を消すこともある。現実に生きた肉体は存在しているのだけれども、それがあたかも存在しないような科学的な方法を講じているにすぎない。

こうした現象は心霊と混同される傾向があつた。だが、UFO問題に関する限り、いわゆる心霊の分野とは一切

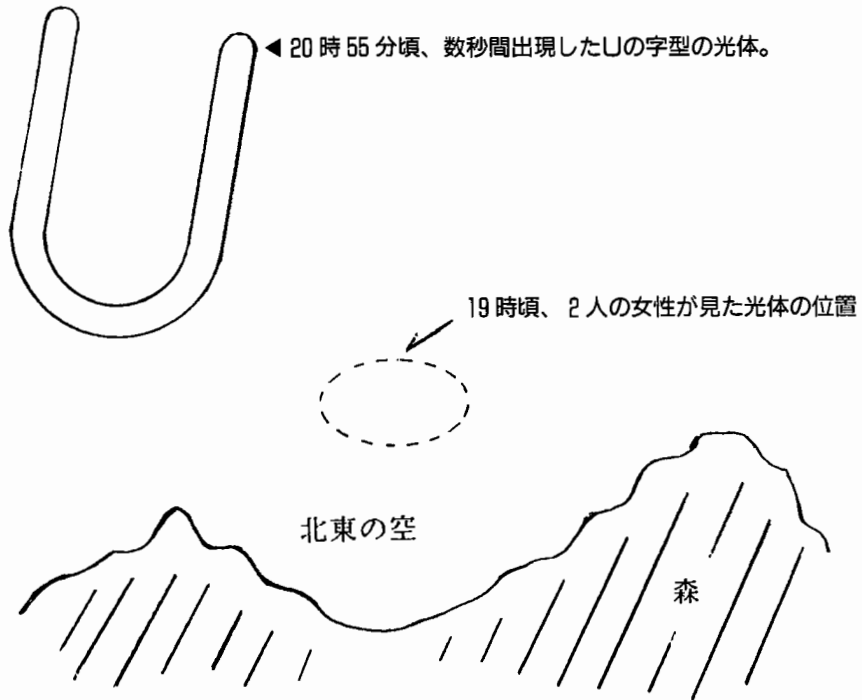
無関係である。スペース・ピープルは筆者の知る限り、肉体を持つ現実の生きた人間そのものであるし、見かけ上は地球人と全く変わることはない。

シアトル空港で助けられる

一九七九年、日本GAPの海外研修旅行でアメリカとグアテマラへ行ったことがある。このときは総勢約六〇名に達したので全員が同じ飛行機に乗れなかつたため、二組に分かれて前後して出発した。筆者は後発組を引率し、まず米西海岸のシアトルへ着いて、ここでロサンジェルス行きの飛行機に乗り換えることになつていった。

ところがこの空港の税関の荷物検査が異常にきびしく、一同はなかなか出てこない。添乗の役目をする筆者は手続きの問題もあるので真つ先に税関を出て、いらいらしながらエスカレーターを一人で昇り、指定のゲートの方を遠くから見ると、出発時間は過ぎていて、客はほとんどおらず、わずかに二人の紳士が立っているだけだ。「しまった。乗り遅れたか」と地団太を踏み思いで二番ゲートを目指した。(実際には登録してある三〇名もの団体を積み残して飛行機が飛び立つことはありえないのに、このときは気が転倒して、シアトルで野宿か、という想念までチラついた)

広大なフロアを横切つてゲートに



イラスト／堀江健一

向かうと、くだんの二人の紳士は遠くから筆者を見つめていた。

そばまで近づいて、茶色の服を着た背の高い方の白人タイプの紳士に、飛行機はもう出たのですかと聞くと、紳士は静かにイギリス英語で答えた。

「いいえ、飛行機はまだ外にいます。このゲートの係員は飛行機の中へ入っています。あと一五分ほどしたら、ここへ帰ってきますから、それまで待つといいでしょう」

爆弾投下(これは筆者が所属していた昔の陸軍航空隊の用語で、こらえていたウンチを野外で一気に放出することを意味する)をやったような安心感とともに、へたへたと座り込んだ。

すると奇妙なことに、ちょうど五分経過してから係員が帰って来た。紳士がこんなに正確に知っていたのは、たぶん航空会社関係の人だからだろうと軽く思っていたのだが、この二人が実はスペース・ピープルであることを確実に知った。

数年前、イスラエルのガリラヤ湖畔の都市ティベリアスの路上を歩いていたとき、向こうから来る若い美しい女性を見て、それが異星人であることに筆者は気づいた。白人タイプだが髪は黒い。相手は顔をそむけるようにしてすれ違った。一緒に歩いていた数名の仲間が気づかない。筆者は黙ったままホテルへ帰った。

異星人は筆者があとでこの件をみん

なに話すことを予知していたために顔をそむけたのである。容貌や特徴を覚えられたくないからだ。彼らは愛の精神の権化であるけれども、地球人を極端に警戒している面がある。ひどい目にあわされることがあるからだ。

大国の情報操作

いったいスペース・ピープルというような“人間”が存在するのか。別な惑星から来たといったって、我らの太陽系の地球以外の惑星に生物は存在しないことは、探査機などの科学的調査ではつきりしてはいないか、という人が大半であろう。

これは非常に複雑な問題を含んでいるので、軽々しくは言えないが、米ソの惑星探査、特にソ連のベネラ九、一〇号で金星の実態が判明したはずである。もちろん、情報がありのままに公表されるはずはない。隠蔽を重ねて秘密のヴェールの奥に秘匿されてきた。こうして表面では「科学」の名のもとに情報工作が行なわれ、世界中の人が「科学」なるがゆえにそれを信じきっているのである。

『科学』という言葉は神であるとともに悪魔の二面性をも備えていると言える。この言葉が武器にして、どのようにも人心の操作ができるからだ。

観測会にもどることにしよう。当初は九時までの予定をさらに一〇時まで

延長したが、結局際立った出現はなく、ついに閉会とした。だが、最後には全員で上空に向かって感謝の言葉を送った。

次に参加者数名の感想を掲げたい。堀江君は理科系の専攻者なので、その観察記録とイラストはすぐれている。

Uの字を目撃して驚く

千葉県 堀江健一

七時頃、佐藤設子さんと永山稔子さんが遅れて会場へ到着したとき、大きな緑色の楕円形の光体を二人で目撃し、このことを久保田先生に話して、しばらくたつた八時五十分頃、最初に光体を目撃したのと同じ北東の方向を佐藤さんが指さして、「Uの文字が空に描かれている！」と先生に言われたので、見ると、少し傾いた完全な形のUの文字がはつきりと確認できた。

明らかに人工的に描かれたもので、寸分の狂いのないUの文字だった。見かけ上の大きさは、手を伸ばして親指と人差し指を広げた長さの一・五倍ぐらい。仰角三〇度ないし四〇度の位置だった。精緻な雲または霧のようでもあり、わずかに光っているようで、私の目には白銀色の輝きを放っているように見え、非常に高貴な感じがした。しかしはつきりと見えた時間はほんの数秒だったので、先生が大声で皆さんに注意をうながしたときは、すでに

崩れかかっていたから、完全な形を見た人は残念ながらごく少数だったと思う。しかし大感動の観測会だった。

カシオペア付近に光体を見る

静岡県 高梨十光

先日は素晴らしい観測会に参加できて、無常の喜びを感じた次第である。

小生は恐縮ながら、あのような大人数の観測会は初めてなので興奮してしまい、星が動いているような錯覚を起こした。その後なんとか気をとりもどして、九時四七〜八分頃、カシオペア付近に流星タイプの光体を発見した。最後の方で少し蛇行して消えた。観測会は成功であったと思う。

天頂付近で光体を確認

東京 清水 正

始めた頃は雲があつたが、終わり近くになるとこの雲もなくなつて、星がよく見えるようになった。九時からさらに三〇分延長した時間帯で、私は仰向けになって双眼鏡で星を眺めていたが、ふと見つけた星の一つが動くのが見えた。方向は天頂から少し左寄りを北から南へ動いていた。縦ならんだ二つの星とちょうど三角形を造るような動く光は次第に鋭角の三角形となつていった。色は橙、色。やがて光体は消えていった。目撃時間は二〜四秒程度であつたと思う。

▼観測中の筆者（右端）。その左で片手を上げていますのは堀江健一君。



来年度もUFO観測会を開催するが、今度は会場を変える予定であり、すでにその場所の下検分はすませてある。ただし本誌に予告を掲載して参加者を公募することはしない。東京月例セミナーで呼びかける程度にとどめたい。

これは興味本位の大群衆にふくれあがるのを避けるためである。やはり宇宙哲学を主体にしてテレパシクなフィードバックの高揚を図ることが最大のポイント。これに関しては月例セミナーで指導している。



●コルファックスの円盤

1978年4月19日、米ウイスコンシン州コルファックス市上空を飛ぶ円盤。詳細不明。

I Can Recognize Space People
by Seeing Their "Aura" by Hachiro Sasaki.

私の超能力開発体験と 異星人女性との出会い

●佐々木八郎

オーラで異星人を見分けてテレパシーで話の合った人の貴重な体験記

スペース・ピープルの無私の愛

本誌一一六号、一一七号のアリス・ポマロイ女史と秋山眞人氏の記事を読みました。両氏の記事に非常に感銘を受けました。

両氏とも同じ事を言っている部分があります。全世界的な金融組織が存在し、そのための情報機関があり、サイレンス・グループがあること。人の心进行操作し、経済活動をコントロールし、対立するように力を争わせ、戦争を起し、自分たちを太らせる事をやってきたこと。人の心、エネルギー、血を食い物にして、地球世界を動かしてきた者がいること。

これらのことは以前から伝えられていた情報ですが、改めて読むと、やはりそうなのかなという感じがしました。地球の実態を疑う余地なく知らされた

思いがします。

スペース・ピープル（異星人）は、このような地球を相手に、対地球スペース・プログラム（地球救済計画）を展開していることを強く思いました。月並みな言葉かもしれませんが、スペース・ピープルの無私の愛を思います。異星の宇宙船を目撃するときのフィリングを思い出します。

スペース・ピープルのオーラ

私は今、スペース・ピープルをオーラで見分けられるようになりました。たびたび、いろいろな所で見かけました。

（編注）オーラとは人体その他万物から放射されている不可視の放射線。普

通の人には見えないが、特殊な能力を持つ人には色のついたオーラが見える。人体のオーラは精神の高低によって色が異なり、原則として高次元な精神を持つ人のオーラは紫色、さらに高次元な人は銀白色、黄金色になり、次元の低い人はその逆の暖色系統のにこった色に変化してゆくといわれている。

スペース・ピープルは一般の地球人のオーラとは全く違うオーラを放っています。生命力が非常に強いということが言えます。こちらからテレパシーを送ると反応がある場合もあります。しかしオーラはそのときも消えませんが、だからオーラそのものは見ることができません。

しかし私自身の他人のオーラを見る能力はまだ発展途上にあります。スペース・ピープルのプログラムは、地球人一人一人を見つめているようです。

波動を感知すること

心が波動を放つのは何人も人間だけに限りませんが、私自身はもう少し波動に敏感になる必要があると思っています。地球で私が生まれてからそんなに時間はたっていないませんが、これまでのさまざまな宇宙の体験から言えることは、確かに波動は存在し、それは確実に他者へ伝わるということです。

波動というのは、テレパシーであったり、予知夢であったり、念力であつたり、過去知であつたり、オーラ透視であつたり、シンクロニティーであつたり、他にもいろいろありますが、無数の形態で現象化してきます。

波動は現象化し、現象の因として波動があります。経験的に帰納的に波動の存在は確信できます。アダムスキー氏は「宇宙の意識」「英知」と言っています。私の日々の行動において、これとはとても役立っています。

ポマロイ女史と秋山氏には共通の心があります。スペース・ピープルのプログラムに協力し、地球人を救おうとする心です。私はこのお二人の偉大な素晴らしい心に感銘をおぼえました。久保田先生、このような記事を有難うございます。

超能力開発練習を毎日続けた私

今年は一九九二年。今から約一五年前の一九七七年のこと。この頃から路上でさまざまな場所で、スペース・ピープルらしき人々を偶然にたびたび見かけるようになりました。いや、以前から来ていたのですから、私が気づき始めたと言った方が正確でしょう。見たときに初めからスペース・ピープルだとすぐ分かったわけではありません。沢山のオーラを透視する体験を通して分かったことです。

気づき始める五、六年前の一九七〇年頃から、宇宙的な事に関心を持ち始

めました。テレパシー、PK、オーラ透視、遠隔透視、過去世透視などの実験と練習をほとんど毎日やるようになりました。

実験をやっていただけではなく、宇宙人、宇宙、UFO、宇宙哲学、宇宙文明なども研究しました。これはコンタクトティーであるアダムスキー氏の主張が中心となっています。UFOを自撃したり、不思議とも思える体験もしました。

少しずつ少しずつ実験と練習の成果が自分で自信をもって確認できるようになってきました。

私はその頃から人のオーラを、どこでも、いつでも見るクセがありました。他人のオーラを見る練習がクセになっていたのです。頼まれて見ていたわけではなく、自分で練習として見ていたのです。

筆者紹介

一九四六年北海道で生まれる。大学卒業後、東京の小学校教員になり、現在に至る。アダムスキー哲学に触れたのは一七〇八年前。日本GAP会員。

◀佐々木八郎氏



オーラを毎日何年間も見ていると、スペース・ピープルらしき人々のオーラと地球人のオーラとの区別がつくようになりました。少しずつ、自信をもつて、そう言えるようになってきました。見えてはいても、初めはほとんど自信がもてなかったのですが――。

ある女性異星人のオーラ

この話の発端は今から七年ぐらい前のことです。ある書店に本を買い求めに行きました。かなり広い店ですが、店の中へ入るとすぐ一人の店員さんに目がゆきました。その人は女性です。その人の体から放射されるパワーと広がるオーラに目が向いてしまいました。身長は三倍以上あるオーラが見えるのです。

それは橙、色と黄色と金色がきわめて細いスジになって混ざっているオーラでした。洋服の上には店員用のエプロンを着けています。洋服の色のアンサンブルが鮮やかで奇麗でした。服だけではなく、靴下と靴の色の取り合わせにまで気を配っているのが分かります。

した。卓越したファッション感覚の持主だと思いましたね。少ししてから分かったのは、とても親切な人だという点です。

この人のオーラは「行動的」「活発」「明るい」「繊細」「楽しい」という意味をあらわしているようでした。

テレパシーで語り合う

このときはこれだけでした。しかし家に帰っても、さっき見たオーラのこと忘れられません。紙に色エンピツで描いてみましたが、オーラを紙に描きあらわすことはとても不可能です。何度描いてもオーラを再現することはできません。

その女性の顔のことなどは忘れてしまいました。オーラが忘れられませんが、それまでに一度も見ることのないようなオーラだったので、心がビクッリしたようです。私にはピンとくるものがありました。

後日、ある本を探しに同じ書店に行きましたら、同じ人（女性店員）がいました。同じオーラを放射していたので、すぐ分かりました。私は本を探しましたが、見つかりません。そこで、「一緒に本を探して下さい。」

という想念をテレパシーでその人に送ったのです。そうしたら、その人は私のそばに来てくれて一緒に本を探してくれました。そのとき、

「一緒に探してあげましょう」という言葉が私の頭の中に聞こえてきたのです。

非常に親切な日本人タイプ

このときは、この人をよく見ました。目鼻立ちのはっきりした、大きな目の日本人タイプの女性です。結局、探していた本はありませんでした。

この人は私がある店に行くとき、必ず丁寧な挨拶をしてくれます。「毎度有難うございます」「本日は有難うございました。またご来店下さい」というような挨拶をしてくれました。

あまりにも丁寧なので、あるとき、他のお客さんに対してはどうなのだろうかと思いつつ、私は横目でその人を見ていました。私のひいき目ではなく、他のお客さんに対してはそんなに丁寧ではありませんでした。しかもその人は私に見られていることを知っていました。

テレパシーが通じたり、オーラを持つ雰囲気は圧倒されて、私は嬉しくなっていました。テレパシーが伝わってくると、その人の心や感情などがダイレクトに伝わってきます。テレパシーは魂をゆさぶるものです。

私は都合のつく限りその店にしょっちゅう出かけていました。本を買うつもりはないときでも行って見ました。しかし行ってもその人がいないときも

ありましたが――。

女性は金星人だったか？

私にはテレパシーが通じ合う人はそれまで一人もいませんでしたから、よい友達ができたと思いました。

その店に行けば必ずその人のオーラを見ました。ときどきオーラが変化することがあります。あるときオーラが大きさが小さくなつて、色も薄くなつていました。たぶん、調子がよくないのだろうなと思いました。しかし、それでも店内にいる他の人とくらべるとやはり圧倒的なオーラなので、いちばん目立ちます。

その人は地球人の年令で言うと、二五〜六歳ぐらいに見える人でした。凄（まじ）い、素晴らしい人（異星人）でした。

この人に出会う以前に、五色の光を出すUFO（図1）を見ましたが、そのUFOに乗っていた人たちと同じグループの一員であるという印象を私は受けました。

この目撃は、この人に会う二年ぐらい前のことです。しかし、このことについて特に質問したことはありません。「どこの惑星からいらつしやいましたか？」とも聞きませんでした。そのときは、そのようなことはどうでもいいことだと思っていました。

しかし、あとから思うと金星人だったように思います。植物の茂っている

潤潤な森など、金星の様子（図2）と同じ映像が見えてきたからです。これは、その人のことを思つて「どこの惑星の人だったのだろうか？」と、心の中で考えていたときに出てきた映像なのです。

またも喫茶店内で出会う

その後、別なある日、その書店のある同じ街の喫茶店で会いました。でも話をしたわけではありません。

私はある喫茶店に入りました。そのとき、書店にいるその女性に対してテレパシーを送信していたのです。

「今もし忙しくなくて、外へ出て来られるようなら、ここへ来て下さいませんか」

そうしたら、なんと本当に来てくれたのです！

テレパシーによる返事はありませんでしたが、私のテレパシーは通じたという手ごたえはありました。

しかしその人は私とは別なテーブルにつきました。

「こんにちは」

というテレパシーだけが来しました。

その人の様子を見ると少し悲しそうです。私はそれを見て「この人は元の惑星（ホーム惑星）に帰る日が近づいているのだな」ということが分かりました。すると、

「私は帰ります」

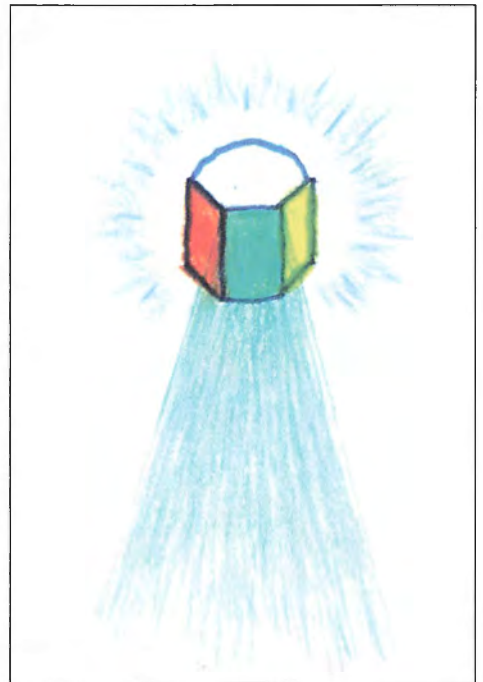


図1

▶緑の光を出しているUFO。橙、緑、黄、赤、青の光をこちらに放射しながら飛行する。一つの光は二秒間ぐらいずつ放射された。距離は100〜300メートル。東京都江戸川区松江にて。多数の同時目撃者がある。

というテレパシーが来しました。

以上は私が異星人に会った一つの例です。

超能力とは何か

「心は意識を通じて原因に気づくようにならねばなりません」

「われわれは、一つの結果（現象）を見るときに、一体となつてあらわれている原因と結果を見るように自分自身を訓練する必要があります」

（ジョージ・アダムスキー著『生命の科学』より）

超能力とは、宇宙的な能力、または自然的な能力、または単に能力のことです。この力に対するその人の意識状態によって、とらえ方、呼び方が違うようです。

テレパシー、オーラ透視、サイコキネシス（念力）、遠隔透視、念写、テレポート（瞬間移動）、ヒーリング（病氣治し）、タイムスリップなど、私にとつてはどれも同じです。

具体的な興味のもてる実験と練習を次から次へと、よくもまあ飽きもせず、と自分でも感心するぐらいに、ここ一〇年間以上もやってきました。

しかし一つ一つの完成はバラバラで、どれも能力としては未完成のものばかりだという感じがします。子供のようなものです。

未完成の能力でも、私は必要に応じて日常生活の中で使っています。これは出来て、あれは出来ないということはないような気がします。一つが少しでも出来ればほかのものも出来るはず

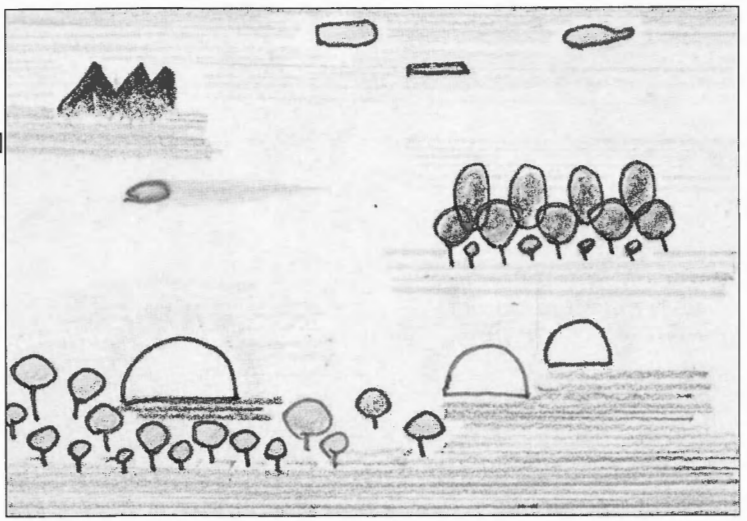


図2

です。なぜなら、もともとそれらは一つのものですから——。

あとは興味を失わないように、自分で自分のまわりの条件を作っていくべきでしょう。条件というのは、実験や練習にすぐかかれるように品物をそろえておいたり、自分の意識や想念の流れを調節しておくことです。

要点は、関心を保ち続けられるように工夫しておくのです。ミラクルワードとミラクルイメージで自分に必要な波動を自分の中から引き出すことが出来ます。

日常で練習をワザに活用しよう

この力（超能力を発揮しようとする力）を日常ふだん使っている、その人にとっては単なる一つの能力またはクセという感じになってきます。

アダムスキー氏は超能力を彼の血肉とし、人格化していたと思います。しかしこのような能力を地球人一般がみんなに身につけているとは思えません。この能力を使う人がふえているように感じられます。

話が少しずれますが、私の場合は実験や練習を通じて四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）が以前より鋭敏になったような気がします。たとえば、目で何かを見たとき細部まで記憶できるようになったこと、一度にいくつもの音を聴いて覚えること、イメージやそれに

まつわる映像、情報、記憶などが鮮明さを増したことなどです。

私は今は自分の過去世を思い出して関心を持ち始めています。

私の超能力開発練習法

そこでこれらの練習をどのような方法で行なったかを以下に述べてみます。

テレパシー

トランプかESPカードを裏返しておいて、それが何であるかを当てていく。家族で二人組を作って、当てっこをしたこともある。

電気器具や機械が故障したとき、どこが悪いか探り当てる。どこが故障していますか」と自分の意識に聞く。そうすると心のスクリーンに故障のところが赤くなったり光ったりして分かる。文字が出てくることもある。小鳥、猫、犬、花、草、木、昆虫などにテレパシーで話しかけると、それに応じて変化し、言葉が返って来ることがあった。ここで言う変化とは、テレパシーどおりに相手が動くということである。

サイコキネシス（PKつまり念力）

スプーン曲げ。スプーンに指の腹で触れて曲げる。曲がってしまっている光景をイメージしながら曲げる。針金などはイメージするだけで曲がる。コンパスの針を動かす。この場合も

針が動く光景をイメージしながら動かす。ただしコンパスを動かすのは非常に疲れる。

電気がなくなった電池に充電する。手で電池を握って、電気がいっぱいつまっているイメージを電池の中を送り込む。ただし電池が壊れているときはダメ。

オーラ

花、草、鳥、木、鉱石、身近な品物のオーラを見る。ふだんからよく観察していて、感じ取るようにして見るとよく見えてくる。

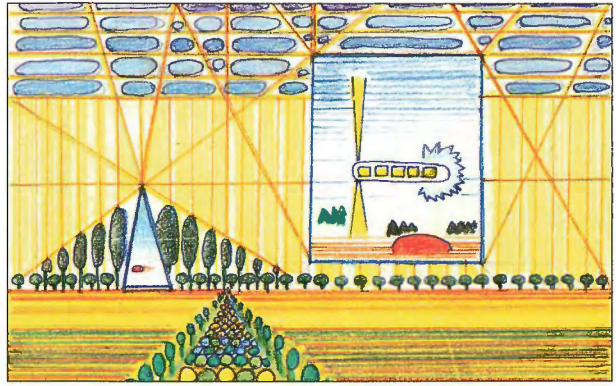
人の体の周囲、頭、指、手の周囲のオーラを見る。

内臓のオーラを見る。この場合は透視である。胃、大腸、小腸、心臓、筋肉系、神経系などのオーラを透視して見る。この場合も感じ取るようにして見るとよく見えてくる。

オーラを見ると、オーラの違いの意味が直感的に分かるようになってくる。つまりオーラの意味が分かってくるのである。どんな人間、物体、雰囲気、エネルギーにもオーラはあるようである。

遠隔透視

心の中のスクリーンに遠くの景色、光景、情景、風景を映し出す。初めは自分の知っている景色を映し出す。少しずつ遠くの景色を映し出すようにす



▶筆者によるイラスト。以前、富士山麓の朝霧高原でUFO観測を行なったとき、筆者が見た母船型UFO。上下にサーチライトを放射している。

る。すると地名だけで自分の見たことのない知らない土地の景色が出てくるようになる。

景色だけでなく物でも人でもよい。初めは全部透視出来なくても心配はいらない。何らかの手がかりになるものが見えてくる。何も見えないというか、雰囲気や色だけが見えてくることもある。過去世の様子も遠隔透視で見えるのではないかと思う。

過去世透視

ふだんから自分の興味や関心を具体的なレベルにおくか、意識レベルで把握しておく。つまり自身に興味と関心を持つことである。そうしておく、と過去世を思い出しやすくなる。また、自分の現在だけでなく、過去や未来についても関心を持つようにする。つまりそのような意識状態にしておく。

そうしておいて、「私の過去の状態を教えて下さい」という言葉を自分の意識に言う。つまり自分に言い聞かせるのである。

私の場合は、寝入りばな、目が覚めたとき、夢を見ているときなどに自分の過去世をよく見た。しかしそれは今でも断片的である。まだ全体像というか中心となるような過去世は見えていない。ふっと湧き出てくる過去の様子や光景をできるだけ記録しておくと思ふ。

「心のスクリーン」について

私の場合は大きなスイッチを思い浮かべて、スイッチをONにするると心の中に大きな白いスクリーンが出てきて、スイッチをOFFにするとパツと消えるようにしてある。このスクリーンもイメージ法を使って出す。ミラクルワードとイメージ法で条件づけた。

以上、私の体験は、人のオーラを見ていたときに、たまたまスペース・ピープルのオーラを見る機会があったというのに尽きます。地球人のオーラとは圧倒的な違いがありますが、これはちよつと言葉で説明しきれないものです。

私の体験は記録をとっていません。イメージとして記憶しているだけです。イメージを言語化することは、今の私にとつては非常にむづかしいことですが、しかも皆さんに分かりやすく書くとなると、さらに困難になってきます。

言語化すれば関連した別なイメージ情報をさらに思い出すことになり、より一層まとめることがむづかしくなります。

オーラを見てみると、別な映像が出てくることもあります。私のオーラを見る力は、まだまだ発展の余地があります。

スペース・ピープルのオーラは地球人が各自で見るとべきものだと思ふます。こんなものですよ、あんなもの

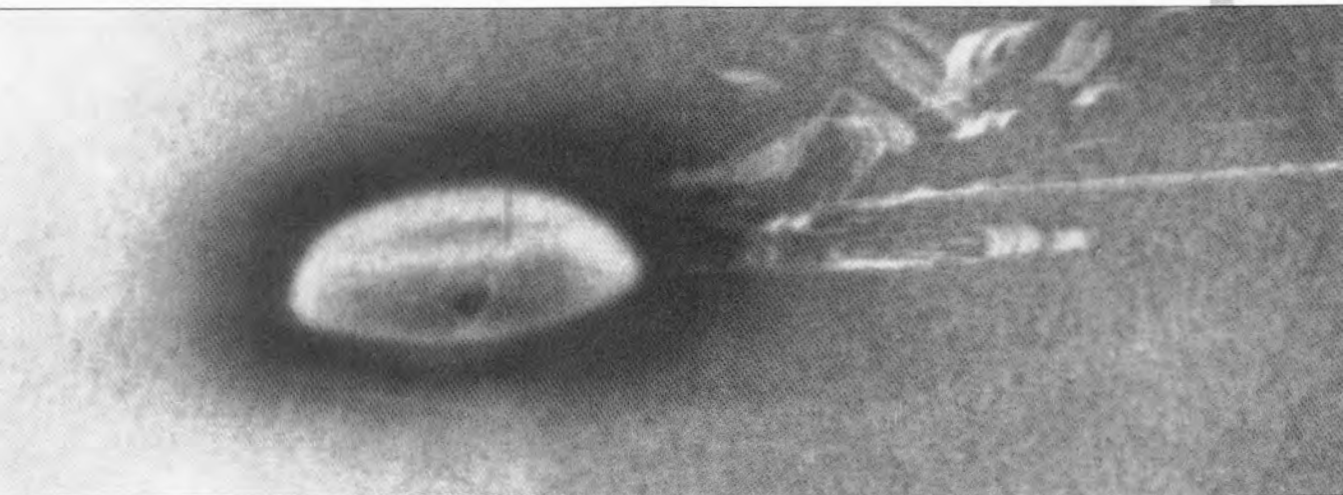
ですよ、と他人に言うことではないような気がします。スペース・ピープルは彼らのオーラのことを話す許可を私に与えていません。

したがって、異星人のオーラの件については当初書くつもりではなかったのですが、考えた結果の結論としては、実例が一つだけならよいのではないかといいことでした。異星人のオーラの見え方について一般化しなければよいのではないかと考えたのです。

そこで、体験済みの実例の中で、一つだけ思い出しの作業をやって書いてみました。

ただし異星人のオーラについて一般的な見え方を書いたものではありません。これはあくまでも私自身の見え方を述べたものです。読者の方々にとつてこの記事が役立つかどうかは分かりませんが、一つだけ言えることは、こうしたいわゆる超能力の開発は誰でも可能であること、そのためには実験や練習を一〇年一日のごとく毎日続けることです。皆様のご成功をお祈りします。





ミシガン州の不思議な写真

1978年5月17日、米ミシガン州オーグレーの住人ジェームズ・A・ゲリンシーが、同州セントヘレンから約3キロ離れたハイウェイM55号線を車でドライブしながら、通学していた写真教室の習作として雲の撮影をあちこちでやっていた。そのとき1枚の写真に不思議な物体が現れたのだ。

午後3時半から4時までのあいだ、彼は愛用のヤシカ・エレクトロ35ミリカメラで白黒フィルムを使って雲の芸術写真を撮っていた。太陽光線が雲に輝いて美しい光景を呈している。それ以外に別段奇妙な物は空中に見られなかった。

帰宅してから、プリントされた一連の白黒写真を見て驚いた。そのうちの1枚に白いフットボール型の物体が写っており、周囲には黒いハローが取り巻いている！ どうやらこれは上部がドーム型で下部の平たい物体を斜めに撮ったらしい。写真教室の先生がネガを顕微鏡で調べたが、フィルムのキズでもなく現像時のミスでもないことが判明した。

撮影時に気づかなかったが現像したら奇妙なUFOらしい物が写っていたという例は日本でもあるし、編者にも経験がある。その場合はUFOの船体そのものではなく、高空にいるUFOがビームを送ってフィルムに感光させるのだと秋山真人氏が言っていた。これもその一種なのだろうか。

瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快

口ノ町一男（日本GAP大阪支部）

死の淵まで行った奥さんとともにミラクルワードとミラクルイメージを応用して難病を奇跡的に癒した夫妻の感動の純愛物語

なぜ自分の妻が難病に！

一九八八年一〇月二二日、妻からの突然の電話が今までの平和な世界を一転、暗黒の淵に突き落とししまった。病院で検診の結果、「すぐ入院して下さい」という。病名も分からず、絶対安静だけを告げられた。しかも部屋から一歩も出てはならず、その上緊急血液の手配を依頼された。何がなんだかさっぱり分からない。

一体、何が起こったのだ？ あれほど元気だった妻。風邪をひいても決して寝込まなかった敏子の現状が全く理解できない。

そんな自分たちにはおかないしに病院の先生方は必死で緊急対応策を講じていた。そして夜の九時になる頃、ようやく処方箋が決定した。折しも金

曜日だったので、病院としても最大限の努力をして下さり、一命をとりとめた。

膠原病か？

「今は特発性血小板減少性紫斑病が見られるが、厚生省の指定している難病の一つである膠原病の一種かもしれない。まだ特定できないが、非常にむつかしい病気であることには違いない。輸血が必要になるかもしれないので、今緊急に考えてほしいのは、新鮮な血液を四〜五名、いつでも入手できるように手配して頂きたい。全身性の血小板に関する困難な病気だろう」

主治医の先生からお話を聞いて、少しづつその恐ろしさを感じ始めた。妻はこのことを知らない。

四日目の一〇月二四日、再度次のようなお話があった。

「血液の黄疸症状が出ている。血小板だけがでなしに赤血球も減少してきた。溶血性貧血が出ている。病名もほぼ膠原

病のSLEのようだが、まだ断定はできない。ステロイドの投与（毎日一二錠を一日三回に分けて飲む）による変化を見ながら検査を続けて対処したい（中略）表面に見えるのはエヴァンズ症候群のようだ」

血液がダメになってゆく恐ろしい病気！ 私は血の気が引くのを感じて、どうすることもできなかった。

（編注）膠原病とは皮膚、筋、関節などの結合組織に変性が起こり、膠原繊維がふえる病気の総称。原因不明だが、自己抗体による自己免疫疾患と考えられる。エヴァンズ症候群は膠原病の一種で、免疫が異常になり、抗体が血小板と赤血球を破壊するため貧血になり、出血傾向が大になる。治療は副腎ホルモンのステロイドの投与だが副作用がある。原因不明のため完全な治療は困難とされている。

ミラクルワードへの挑戦

しかし落ち込んでばかりもいられない。ふと思いついたのが「お百度参り」である。以前、本誌に久保田先生が書かれた「奇跡を起こすミラクルワード」という記事を読んだことがある。それを試してみよう！ 初めての経験だが、思いついたらいてもたってもいられなくなつた。

そこで六日目の一〇月二六日、なりふりかまわずに開始した。私は自前のミラクルワードを徹底的に実行したの

だ。およそ一時間にわたって、「敏子は必ず治る！」という言葉を繰り返し唱えるとともに、敏子が呼吸をするたびに血小板や赤血球が増加し、正常値を維持して健康になっている姿を懸命にイメージしたのである。

一回目は効果がなかった。しかしあきらめずに一二日目の十一月一日、二回目の挑戦を実行した。

その結果、信じられないことが起こつた。ついに大幅な増加傾向が顕著に出たのだ。数字こそ教えてくれなかったが、まわりの人が驚くほど、主治医の先生が喜んで下さったのが印象的であった。入院当日、ほとんど測定不能に近い一千という値からは夢のようであった。

翌日、二四時間の緊急輸血体制は解除された。このときばかりは全ての人に感謝の気持を捧げた。何しろ目に見えない敵との戦いなので、現代医学との相乗効果が出ているのであれば最高だ（血小板数が一万以下というのは、いつ、どこで内出血が起こっても不思議ではない状態である）。

どん底からの脱出

本人への病状説明は薬の説明程度ですました。精神的な落ち込みが病状の悪化を招く恐れがあるからで、その点は主治医の先生と話を合わせることにした。

ある日、妻の最も信頼する妹夫婦が

見舞いに来た。互いに再会を心から喜んだが、妹の主人は翌日帰宅してから急病で入院し、その翌日急死したのである。

この不幸な出来事を妻には知らせなかった。しかしこのとき、「敏子は生きている！」ということに気がついたので。今までは「死にそうだ」「死んだらどうしよう」とマイナスなことばかり考えていたのだが、人間は死の間まで生きているのだから、もつと生きることを考えよう、今後どんな辛い変化があろうとも、命あるかぎり全力を尽くそうと思つたら気が楽になった。

順調な回復と再発の悲嘆

二九日目の一月一八日には入院時の脚や腕の内出血もほとんど消えて、赤血球も普通の貧血状態で安定し、ついに五日目の二月一四日、血小板の破壊が止まった。

このため制限付きで外出許可を頂いて、久しぶりに懐かしの我が家へ妻は帰り、家族一同でクリスマスとお正月を祝った。

ところが、どういうわけか、一月になつてから病状が悪化し、ついに血小板のみの輸血を強行せざるを得ない状態になった。本人は絶望感に襲われて今までの努力が水泡に帰した。最悪時には全血輸血を考えなくてはならないので、五く六人の確保をお願いしたいと先生が言われる。最悪の状態に逆戻りしたのだ。

りしたのだ。

しかし私はくじけなかった。「頑張ろう！」と私は何度も敏子を励ました。すでに妻には血の気がなく、黄疽症状がかなり進行していた。

その頃、Uコン一〇四号の巻頭言である「人間のカルマ」と題する記事が頭から離れなかつた。

手を差し伸べてくれた

Uコン一〇四号

二月四日、病院の婦長さんからお話があった。敏子は精神的にかなりまいっていて、子供のことで毎日涙を流しているという。つらいだろうが、子供は家においたままにして、当分は私が付ききりでいるほうがよいのではないかと云う。

両親のいない家には小三と小一の二人の息子がいる。一緒に遊びに行つた友達の家で寝てしまった弟を兄がおんぶして寒い冬の夕暮れに真っ暗な家に帰っていると、近所の奥さんが伝えてくれた。なんとということか、このつらさはもはや心身ともにどん底の状態である。病院に近い場所に仮転居を決定し、転校させて子供たちとともに暮らすことにした。

二月七日、ワラをもつかむ思いで久保田先生に手紙を書いたら、さっそくご返事を頂いた。とにかくミラクルワードとミラクルイメージを続けよという激励の言葉と、秋山眞人氏に遠隔思

念をして頂くように頼んであげようと言書いてあった。私はミラクルワードとミラクルイメージを続けながら、敏子の写真をお送りして、先生にお願ひした。

二月二日には秋山氏が写真を見ながら透視されたということで、その結果が先生より詳細に知らされてきた。それによると血液障害だということ、回復には少し長かかりそうだが、敏子は病気を治そうとする意志が強いのを写真で感じるから、手ごたえはある。回復するように想念を送ってみるが、「必ず治るといふミラクルワードを続けるとともに、実際に治つて大変元気になったイメージを二人で描き続けるようにして下さい。そうすれば必ず治ります」と激励の言葉を頂いた。それ以来、敏子は毎朝六時前の起床時よりミラクルワードを唱えている。

その後は回復に向かい、ステロイドも半減してきた。

夢のような五月二二日

一九八九年五月二二日、日本GAP大阪支部大会が開催された。私は病院から敏子を連れ出して、初めて平塚代表、遠藤先生、久保田先生にお目にかかった。これは最高に有意義な日で、健康で普通の状態がどんなに素晴らしきことか、身をもって体験した次第である。

その後、秋山氏からのお話として先

生が伝えられたところによると、敏子の病気は遠い先祖からのカルマの解消だという。妻は非常に精神的な力があるので、それを乗り切つてしまえば、その力がコズミック・マインドに向けられて、それが早く開発される素質があるという。そして創造的な何かの仕事を始めるとベストだということだった。とにかく祖先がマイナスなものをインプットしておれば、その代償を子孫が払わねばならない。敏子の病気はその代償の清算みたいなものだから、これを取り越えれば、素晴らしい世界が開けてくるということだった。

これ以前には敏子と同じ病室の他の人が窓からUFOを目撃している。スペース・ビープルからのご援助も先生から願われていたらしい。

不思議な雲を目撃

六月一四日午後四時五分頃、吹田市（大阪府）の出口町交差点で信号待ちをしていたところ、ふと上空を仰ぐと、青空の中にアルファベットの「E」を逆向きにした「E」の文字が出現していた。あまりにも変わった雲なので、先生にお尋ねすると、それはE型の症候群の頭文字のEが逆向きになったもので、つまり快方に向かっているというサインでしようということだった。自分たちの状況がスペース・ビープルの皆さんに理解されているとすれば、本当にすごいことだ！

七月二一日、晴れて敏子は退院してアパートも引き払い、子供たちも念願の我が家へ帰り、夏休みには家族一同が喜びに包まれた。

奇跡的現象が発生！

ところが、せっかくの歓喜も束の間となった。またも病状が悪化し、退院してわずか二週間後の八月一〇日に再入院したのである。そして二二日ついに意識不明の重症におちいった。絶対絶命である。

しかし二七日に信じられないような出来事が起こった。昼の一二時三〇分、部屋の外の空気を吸おうと個室から外へ出て、すぐ向かいの壁にもたれていった。

そのときエレベーターの向こうから話し声が聞こえてきた。でもなんとなく普通の人ではない。秋山氏のようにだ！（氏の顔と声は平塚さんに頂いたカセットテープで知っていた）

氏は誰かと話をしながら私の前を通りすぎて、しかも敏子のいる個室の中に消えてしまった。

午後一時頃、「口ノ町さん、お電話です」という声で出てみると、それは久保田先生からの激励の声であった。私は涙が出るほどに嬉しくなった。

「今日、秋山氏と再びお会いしました。必ず良くなるから、心配しないように！」

なんと先ほど現れた人は、やはり秋

山氏だったのだ！ そしてその話し相手は久保田先生だったのだ。

私は眠り続ける敏子の耳元で、たった今体験した不思議な素晴らしい話を聞かせた。

その夜も消灯の時間がきた。私はいつものように『宇宙の意識』に向かって、心の中でミラクルワードをくり返した。そして二二時四五分頃、携帯ベツドに横になり、静に目をこらした。そしてなぜか「自分は宇宙船に乗れなくてもよい。この地球で頑張るんだ！」という想念がわいてくる。

その瞬間、パツと目が開き、一点の光体を数秒間目撃した。信じられない光景だ。そして上の人（スペース・ピープル）が暖かく見守って下さっているのを実感したのである。

その翌朝、敏子の意識が正常にもどった！ 奇跡は発生した。妻の命を助けるためにご支援下さった全ての関係者の方々から「有難うございます」と申し上げたい。

上空からのサイン、再び現れる

九月に入ってから毎日回復した。九月一〇日一九時四五分頃、晴れ渡った夜空にオレンジ色の光体があつかりと停止しているのを敏子が目撃した。ちょうど腹式呼吸をしているときだった。

「どうか病気が治りますように、どうか元気で家に帰れますように、助けて

下さい」と上空に想念を放射しているときに、その光体は急速に移動したという。

九月二五日午前八時頃、敏子はいつものように平塚さんから頂いていた秋山氏のテープを耳に流し込んでいた。秋晴れの青空が広がるとも気持ちのよい朝であった。

ふと目をあけて空をみた敏子は驚いた。今まで見たことのないような雲が『山』という字を描いているのだ。

意味が分からぬので、その体験を語ってくれたが、私にも分からぬので、先生に尋ねたところ、それはErgans症候群の頭文字の『E』が上を向いた状態で、つまり病気が上向きになってきたという意味なのだろうということだった。

これで二度にわたってサインを頂いたことになる。これはもう偶然というものではなく、明らかに上からの意志表示だと思ふ。

一週間後には外出許可がおりて、念願の子供の運動会を一緒に見に行くことができた。

一〇月四日、主治医の先生から、体質が変わったようだ。手術の必要もなくなったと言われて、本当に嬉しくなった。実は秋山氏の言われた予言どおりになったことに驚いている。あらためて氏の偉大さを感じる次第である。

訪れた転機

一九九〇年一月一六日、風邪をひいたのがもとで、敏子はまたも再発してしまった。なんというやつかいな病気かと思つたが、もう二人ともマイナスの感情は起こさなかつた。一月下旬には秋山氏から再度遠隔思念を頂き、有益な助言も頂いた。そのとき金色の輪の上に赤色の輪を重ねたものを見つめる方法も教えて頂いた。これは一種のイメージ法で、体内の血液の状態の調整作用を助ける方法ということである。これはかなり長く実践できた。

二月六日には久保田先生より、自律訓練によって自己回復を図る素晴らしい方法を教えて頂いた。それは次のとおりである。

まず自分の頭に氷の固まりを乗せたイメージを描く。そしてその氷が少しずつ溶けて、その水が全身を伝わって流れ落ちるイメージを描く。

そのとき流れ落ちる水が体の外側だけでなく、内部の患部を洗い流して、正常な健康体になっていくイメージを描き続ける。するとどんな病気でも治る。

以上の方法は秋山氏がスペース・ピープルから教えられたものだという。また遠藤先生からも激励のお手紙を頂いたが、それは次のようなものだった。

「とにかく大宇宙の英知が味方です。



▲長男の中学校卒業式に出席した口ノ町夫妻。奇跡的に全快した敏子さんが晴姿を見せている。

何事も大宇宙に頼めば、その生命力が必ず答えてくれるはず。大宇宙は力であり、英知であり、暖かい愛です。その中にいることを思ってください。私たちは皆その力でつながっています。頑張ってください」

その後、より具体的なイメージ法について久保田先生より再度伝授して頂いた。それは次のとおりである。

「大宇宙から清らかな水が流れて来て、全身に降り注いでいる。その水は

あらゆる病気を治す力を持つので、体の中の患部を全て洗い流してくれる。そして健康な体が再生しつつある！」というイメージを描き続ける。

以後も順調に回復を続けたが、奇妙なことに病院側にもある変化が起こり始めたのだ。まず担当の主治医の先生の性格が、昨年八月以降、相当な変化をとげているらしい。患者と医師との心の触れ合いに大きく動かされ、信頼関係をゆるぎないものにしたのである。

いまだかつて、そのような態度をとる先生ではなかったのに、と婦長さんが語る。そのために先生がみずから転院させることに踏み切り、結局、日本最高の治療技術を有する教授陣によって脾臓摘出の手術が完了した。こうして八月二日に無事退院することができたのである。

UFOと不死鳥の出現

退院して三カ月が過ぎようとする頃、またも不思議な現象を目撃した。

一月二日、自宅の駐車場を車で出たところで、金属色に輝く物体が南から北の方角へかなりのスピードで、しかも無音のまま移動するのをおじいちゃん目撃した。あまりの嬉しさに車をとめて数十秒観察した。

飛行機の飛行コースとは全く関係のない空中を、米粒大のUFOがときどき銀色に輝く様は素晴らしいものだった（スピードは普通のジェット機の数倍もあった）。

さらに一月二五日、家族連れでほぼ三年ぶりのドライブに出かけたときである。比叡山の山頂で妻と記念撮影をした。

そのとき、まさに上空に不死鳥のような形をした雲が出て青空の中に羽ばたいているように見えた。その写真を月例会で皆さんに見てもらおうと、赤と青の光体とその雲の上に写っているのだ。UFOかどうかは分からぬが、貴

重な目撃だった。

その後、妻の健康はみるみるうちに回復し、七キロの遠道を歩いたり、海水浴やキャンプに行けるほどの体力がついてきた。

私のミラクルワード

思えば早いもので、発病以来子供のうち兄はもう中一、弟は小五になる。今あらためて健康の有難さを痛感し、各方面から多数の方々のご指導、助言、激励のお電話を頂いて、心から感謝する次第である。

まず信念をもって「必ず治る！」と唱えること、「夢は必ず実現する！」と思いつめること。「絶対に希望を捨てないこと」が大切であろう。

さらにミラクルワードとミラクルイメージを実践することが目標実現への最短距離だと思ふ。自分は何もしてあげられないという無力感を思う暇があるならば、「宇宙の意識」にみずから語りかけることだ。愛する人のためにしてあげられる事が必ずあるはずである。

最後に子供と私が唱えていたミラクルワードをお伝えしたい。

「おかあさんが、いちにちもはやく、けんこうなからだに、なりますように！」

「敏子の心も体もたくましい、すべて健康です。」

敏子は今とても快適です。

敏子は呼吸をするたびに、

日々健康な体に

なつてゆくを感じる事ができます。

敏子の血液の血小板も日々増加し、

健康な状態に維持されています。

敏子の血液の赤血球も日々増加し、

健康な状態に維持されています。

敏子は呼吸をするたびに、

新しい血液が流れてゆき、

とても気持ちが良いです。

敏子は呼吸をするたびに

日々健康になつてゆくを感じる事ができます。

敏子の心も体も魂も、すべて健康です。

敏子は今、とても快適です」

編者付記 三年前の五月に初めて会った敏子さんの顔はむくんで青白く、かなり弱っていたようだが、今年五月に大阪で会ったときには別人のように美しく健康になつて、人間こうまで変化

するものかと心底驚いた。宇宙哲学の実践による成果であることをあらためて確認した。全快おめでとう！

編者が救出に全力を尽くそうと決意したのは、口ノ町君夫妻の美しい夫婦

愛と同君の誠実きわまりない態度に打たれたからである。



▶上空に現れた不死鳥に見える雲。右上の黒い輪で囲んだ位置に原画のカラー写真では赤い光体が出現している。



◀万博チャリテイー・ウオークで七キロの道を子供さん二人とともに歩いた敏子さん。すこく元気そう！



BOOK REVIEW



世界の古代遺跡ミステリー
 中村隆三 著 グリーンアロー出版社 B5判/191頁
 〒1800 送料¥310 ☎03-6664-6667
 〒100 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学舎ビル

世界には多数の謎の遺跡が存在して夢とロマンをかきたてている。この関係の書籍は沢山出たけれども、いずれも一長一短、「これだ！」というのはい少ない。この本はありきたりのガイドブックと異なって、誰もが一度は訪れてみたいトップクラスの古代遺跡を10カ所厳選し、豊富な写真と図版を添えて精密きわまりない解説を施したものだ。内容は以下のとおり。中南米の古代遺跡、エジプトのピラミッド、イギリスのストーンヘンジ、古代ヒッタイトの城塞都市、イースター島のモアイ、ナスカの地上絵、ジャワのボロブドール、カンボディアのアンコール、アフリカ・ジンバブエの遺跡、ヨルダン・ペトラの古代都市遺跡。

英語と仏語に堪能な中村氏は広島県出身、東大文学部卒。ユーコン誌でおなじみのUFOと古代文明の研究者。『トワイライトゾーン』誌元編集長。内外の膨大な資料を駆使して書かれた本書は、独断と偏見を極力排した冷静かつ客観的な記述に満ちている。GAP会員好個の書。特に1993年度日本GAP海外研修旅行ではイギリスのストーンヘンジとエジプトの大ピラミッド群その他の巨石文明遺跡を見学するので、参加者にとって本書はきわめて有益な参考書になるだろう。

なおこの本には写真家でもある日本GAP久保田八郎会長撮影のメキシコとペルーの大判遺跡カラー写真6点が巻頭に掲載されている。これはおかし会長がユニバース出版社社長として『UFOと宇宙』誌を出していた当時、編集部員として活躍した中村氏の要請に対し友情協力したものだ。

ミラクルワードと イメージ法で 腰痛が急速に完治

穴原美智子

今年の三月に腰を痛めて、ほぼ完治したと思いましたが、また以前と同様にホルモンのバランスを崩し、いろいろご心配をおかけしたにもかかわらず、五月末より先日まで最悪の状態でおりました。

でも、GAPでイメージ法を学んでいますし、ユーコン誌でたびたび久保田先生の病気についてのアドヴァイスをいただいておりますし、加えて昨年九月より秋山さんのテープを楽しく応用させていただいたりしましたので、以前の私よりもっと楽しくこの病気にチャレンジすることができました。そして、いろいろな方法、瞑想やミラクルワード、イメージ法を実践し、

そして画用紙に「私は必ず一週間後に完治する!」と書いて日付を入れた紙を最もよく目立つ冷蔵庫やピアノの所に貼りつけておきました(注:筆者はピアノ教師)。そしていつも視野に入れるようにしてみました。

「本当に実現するかな? 治らなかつたらどうしよう」という不安感もわいてくるのですが、そのたびにプラスの言葉を言ったり、つとめて楽しく過ごすようにしていましたら、本当に一週間で治ってしまいました!

実際、信念を持つことや確信することとは、とても大変な事だと、こんな体験をするたびに思います。でも「明るいイメージが持てるか、

確信できるか」が、すべてを決定してしまうのでしょうかから、ぜひとも頑張りなくてはいけないと思います。

本当にこうして喜びとお礼の手紙が書けるようになることもイメージしていただのですが、そのとおりに実現させることができました。

こんな個人的な小さな経験ではありますが、積み重ねていって信念を強化し、他人を助けたり、あるいはもっと地球世界の平和のために役立つような自分になりたいと最近強く夢に描いています。

これも久保田先生や秋山さんのおかげと心より有難く思っています。今後もしよろしくお願ひ申し上げます。

UFO over Mt. Kamuro
by Takahiko Numakura

神皇上空のUFO

沼倉孝彦

私は一九九一年の八月より日本GAPに入会させて頂きました。それ以前から書店でユーコン誌を購入して拝見しておりましたが、私自身のことはともかく、日本GAPの啓蒙活動の一助になればというのが入会を決意した動機です。ちょうど私がこの世に生を享けた頃（一九五三年）から活動されている久保田先生とは、長いお付き合いをお願いした次第です。

わくわくするという言葉があります。そんなことも最近は数少なくなり、年齢となり、ユーコン誌の封を切ることに唯一それに値すると言えるかもしれません。人生の折り返し点に差し加かって振り返れば、一般的にいうところの正しい生き方を踏襲してきたとは決して言えない紆余曲折の人生。マラソンに例えて言えば、ゴールであるはずのスタート地点に向かって、折り返し点から寄り道をせずに突き進む、そんな半生になるだろうと思っています。

最後に残ったのはアダムスキー

私は子供の頃から夜空を見上げるの

が好きでした。そういう意味から、空中を飛び交う不思議な物体を目撃する機会が他人よりは多かったと言えます。

夜空に無数にちりばめられた星たち。それらの星のほとんどのが太陽と同じ恒星だと考えれば、この宇宙に生ける物は決して地球だけにあるはずはないと常々思っていました。それでもこの太陽系で生物が住める環境にあるのは、唯一地球だけだという概念に縛られていた時期があつて、その概念から開放してくれたのがアダムスキーでした。

彼との出会いは久保田先生が編集されていた『コズモ』誌だったと思います。周知のように同誌はまもなく『UFOと宇宙』と名称を変え、先生が身を引かれてからしばらくして、『トワイライトゾーン』『TZ』誌と、あらゆる方向に変遷をとげてゆくわけですが、当初からすれば僅かとなったUFO情報を求めて廃刊までお付き合いしてしまつた次第です。

その間、およそ二〇年ぐらいかと思えますが、各方面から情報を仕入れて自分の中で淘汰した結果、残ったのはアダムスキーしかありませんでした。私にとつても、彼ほどUFO問題に対して明確かつ直接的に答えてくれた人が他にはいなかったのです。

UFOを頻繁に見る

一九六九年から一九七七年まで私は在京の身でした。アダムスキーの著書

が、まだ都内文京区の高文社から出版されていた頃、私はたまたま近くの本郷五丁目に住んでいて、アダムスキーの『空飛ぶ円盤実見記』『空飛ぶ円盤同乗記』『空飛ぶ円盤の真相』など、一連の図書を出版社から直接購入して読みあさつたものでした（以上の各図書は改訂されて新アダムスキー全集に収録されている）。

それからまもなく白山に引っ越ししました。そんなある日の深夜、僅かにあけたアパートの窓からUFOを目撃したので。それと同時に、同位置の他人による目撃報告が『UFOと宇宙』誌に掲載されました。

このときは白山から見て後楽園方向上空に光体が数個確認され、心の中で呼びかけると、そのうちの一つがこちらに向かって移動してきたのです。

だいたい上空に近づいた頃、まさか本当に呼びかけに応えてくれるとは思っていませんでした。不覚ながら恐怖心がわきおこり、光体と結んでいた意識の糸をブツツリとみずから切ってしまうと、その光体は虹色に輝きながら、また元の場所になめらかに戻って、他の光体とともに以前と同じように揺れ動いていました。やがてそのままの状態から徐々に薄くなり、消えてしまふという印象深い出来事に遭遇したのです。

当時、姉と妹が埼玉県の和光市に住んでいましたが、白山のアパートでU

F0を目撃した次の日の夜、その日上京してきた母を連れて姉の所に出かけました。和光の駅から踏切りを越えて姉の住まいのある新倉方面に向かう路上でふと振り返つて空を見上げると、光体が夜空を滑るように進み、直角に猛スピードで消え去るのを見せつけられるなど、それ以後、頻繁にUFOを目にする時期がありました。現在はほとんど見ることはありません。UFOが確実に存在することの証を個人的に得てしまつて興味が薄れたという訳ではないのですが――。

テレビシーで編者を感じ

アダムスキーを理解する上で欠かせないのが、当時『生命の科学』『テレビシー』(現在はいずれも新アダムスキー全集に含まれ、後者は『超能力開発法』という題に変わっている)と題した著書であることは現在も変わりませんが、当時これら二冊の著書はBという出版社で取り扱っていました。

そしてこれも偶然ながら、この出版社が白山ということもあつて、直接出版向いて購入したのですが、この出版社のあるビルからの帰りぎわに、階段ですれ違った方がおりました。私は当時、久保田先生を存じあげていなかったにもかかわらず、すれ違った瞬間にどういふ訳か、いまの人は久保田先生であると心を感じたのです。

それからまもなくして家庭の事情で湯沢に帰郷、さらに一〇年ほどして書店で見つけたユーコン誌上で初めて先生のお顔を知り、あらためて当時の自分の印象の正しさ、というよりは久保田先生の意識(自意識の意味でなしに)の強さを確認させて頂いた次第です。

その間、こちらで良き伴侶に恵まれ、現在子供も二人になりました。私が出来ることは数が知れていますが、子供らはまだまだ多くの可能性を持っている訳です。彼らには宇宙的フィリリングを持った人間になってもらいたいがため、星々に関心を持つこと、宇宙には多くの住まいがあること、異星人は我々と同じ人間なんだということ、外からの情報は操作されているものもあることなどを、機会があれば話しています。今は理解出来なくても、将来きっと意識が開花する時がくることを願っています。

現像したら奇妙な物体が

さて、お送りしました写真は、昨年(一九九一年)七月七日に秋田県と山形県の境に位置する神室山に登ったときのものです。

神室山は秋田県の南端に位置する標高一三六五メートルの中規模の山ですが、前神室山と三角石山を左右に抱き、その奥にどつしりと構える山並みは、まさに神々しさを呈しています。

頂上に至るには、前神室縦走の『パ

ノラマコース』三角石山の中腹を斜めに切る『行者泣かせコース』の二ルートがあるのですが、このときは前神室から神室山に至る『パノラマコース』を行き、下山は『行者泣かせコース』のルートを取りました。

湯沢市の写真同好会の仲間四名に、多目的の私を加えた五名でパーティーを組織し、同市を朝六時に出発、七時に麓の登山口から入山しました。天気良かったことも手伝って、二〇数年ぶりの山歩きであることをすっかり忘れていた私は、頂上に至る頃から痛みだした膝によつて、それをいやが上にも思い知らされたのです。

写真は前神室の手前から鳥海山を望んで撮ったものです。撮影時には上空の物体に気づいていませんでした。私是在京中は小石川の某大手印刷会社、帰郷後も市内の印刷会社に勤務し、その後、独立してデザイン室を開設し、趣味と仕事の関係で二〇年近く写真にたずさわっていますが、このようなフィルム傷、あるいは不良などは見たこともなく、知り合いの営業写真家も「フィルムに起因するものではないだろう」との弁。

もともとこの登山ではUFOも撮影出来たらと思っただけに(もつとも、入山してからはそんなことは忘れていましたが)、もしかしたら本物か、と思いたいところもあります。フィルムの子と比較して物体がやけには

つきりしているところから無機質的な感じもします。

あらゆる状況に対峙するとき、私が基本理念としていることは、真実を見定めることにあります。自分を昇華させることなどまだ及びもつかないほど低次元な人間でありますので、目撃だ

けにとどめてしまおう(満足してしまおう)のかもしれない。

ところが、もしこの写真が本当に宇宙船だとすれば、今までカメラに収めたことのない私にとつて、別な方向を目指す一つのきっかけになるような気がします。

◀一九九一年七月七日午前一〇時三〇分頃、前神室山の手前から鳥海山を望んで筆者が撮った写真に奇妙な黒い物体が写っていた。秋山眞人氏の鑑定によるとUFOだといっ。



▼I-ZU(伊豆)支部発足記念大会

かねてからの懸案であった静岡県方面におけるGAP活動の拠点として支部設立の機運が生じていたが、去る八月一日より地元会員の高梨十光氏と赤池澄夫氏が主体となって、ついにI-ZU(伊豆)支部が設立された。これを記念して第一回の大会が去る八月九日静岡県三島市の市民文化開館で開催され、五〇名近い参会者があつて大成功であった。大会開催中に高梨氏が窓外に細長い白いUFOが飛ぶのを目撃するというハプニングがあつて盛り上がった。今後はこの会館で毎月月例セミナーが開催される。静岡県方面の会員各位は多数参加されたい。今後の発展が期待される。月例セミナーの詳細は本誌巻末に出ている。

▼秋田支部大会、盛況

続いて九月一三日には秋田市文化会館で第四回秋田支部大会が開催された。出席者はちょうど三〇名。快晴に恵まれた日曜日、会場は熱気に包まれて大いに盛り上がった。会が進行中、窓の外を見ている松岡圭一氏が空中にUFOが出現したのを目撃。S.P.の祝福と思われる出来事に一同大喜びした。翌日は七台の車に分乗して大勢で仁別国民の森ヘドライヴ。森林浴を楽しみながら秋田の郷土食キリタンポを賞味。この間、会長の助手として同行した加藤純一氏が碧空を飛ぶ白いUFOを目撃。こどもツイていた。

▼東京総会

東京では一〇月一〇日、恒例の総会が東京タワー前の機械振興会館で開催され、多数の出席者で大盛況を呈した。今回は例年と異なつて、純然たるセミナー形式で久保田会長が深遠な宇宙哲学の応用により希望と信念を強化する講演を行ない、多大の感銘を与えた。夕方は銀座六丁目の銀座会館で盛大な夕食会が開催され、そのあと近くの檜茶屋で二次会が開催されて大いに盛り上がった。詳細記事は本誌次号に掲載の予定。

▼第五回長野支部大会

来たる一月二二日(二日連休の初日)、長野県塩尻市のヘルスパ塩尻で第五回目の長野支部大会が開催される。晩秋の信州は少し冷えるかもしれないが、関東方面から近いので多数の会員の出席が期待される。翌日は観光で木曾路めぐりの豪華版。江戸時代そのままの宿場街として残されている名高い妻籠、馬籠、宿などを周遊、その他の景勝地を満喫する。詳細は本号49頁の予告に出ている。塩尻はホテルが少ないので宿泊希望者は一月七日までに博田代表宛に申し込まれたい。早いほどよい。

▼東京本部UFO観測会

去る八月二九日夜、東京本部は神奈川県秦野市枋窪台地にてUFO観測会を開催した。当日は約八〇名の人が参加し、七時より一〇時までテレパシーで呼びかけながら夜空を観察した。結局、一部の人がUFOを目撃し、さらに不思議な「U」の文字が空中に出現したのを何人かが見たが、全員で驚喜するほどの物凄い光景は見られなかった。これは当夜全天曇りであったのが主原因であると思われる。詳細記事は本号に掲載。来年度も開催の予定。ただし本誌に予告はせず、月例セミナーで伝えるのみ。

▼本年度海外研修旅行

本年は予告どおり「アルジェンティン・チリ・イースター島の旅」を八月に実施した。当初の予定を変更して日数が増えたこと、それに付れて総費用も上昇したため最終的には六名というかつてない小人数の旅行団となった。一行は一日に成田空港を出発し、三日間の大旅行を終えて二三日に無事帰国した。

▼一九九三年(平成五年)度 海外研修旅行

九三年度は八月一三日より二二日までの一〇日間、「エジプト・イギリス宇宙ロードの旅」を実施する予定。主体になる旅客機は英国航空。まずイギリス・ロンドンへ直航し、一泊後イングランド南部の謎の遺跡として名高いストーンヘンジを見学。ロンドン帰着後、エジプト・カイロへ飛び、同国に五泊する間、カイロの国立博物館ギザの三大ピラミッド、大スフィンクス、ルクソールからナイル河対岸のメムノンの巨像、ハトシェプスト女王葬

祭殿、王家の谷のツタンカーメン王古墳、その他の歴代王の古墳を見学。ルクソール神殿とカルナック神殿等、古代の壮大な巨石文化の遺跡を訪れて、カイロ着後、市内を自由行動。再度ロンドンへ渡航し、市内見学。二日ロンドン発、二日成田着という日程。今回は一三、一四、一五日の盆休みを含む上、最後の二日(土)と二二日(日)が職場の連休の場合、五日間ほど休暇をとればよいので、参加しやすい。費用も他社の旅行に比較して妥当な線で設定される。詳細は本号四五頁に予告が出ている。エジプトはGAPの研修旅行で今回が五回目となるが、イギリスは初めての旅。英語の本場で英会話の練習にも最適。この二カ国の組合せはめったにない企画。多数参加が期待される。

▼東京月例セミナー

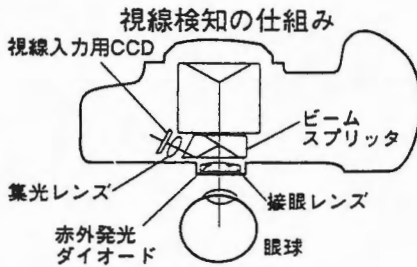
東京月例セミナーは毎月第一日曜日に東京タワー前の機械振興会館、地下第二研修室で開催されているが、今年一月のみは会場が同会館の六階六七号室に変更されるので要注意。九三年一月一〇日(日)は月例セミナー中に恒例の出席者全員の写真撮影を行なう。写真希望者は入場時に受付で一〇〇〇円を別途納入。終了後は別途会場で新年会を開催。この会費は各自の注文分だけ支払う方式。詳細は当日セミナーで伝達。東京セミナーはすこく静粛なのが特徴。全員真剣。

視線入力カメラを開発

キャンノンは撮影者の目の動きを感じ、自動的にピントを合わせる世界初の視線入力自動焦点カメラを発表した。

このカメラは接眼枠に組み込まれた赤外線発光ダイオードが撮影者の目を照射することにより、ファインダー内の中心線に沿って記された五カ所のフォーカスポイントのうち、どのポイントも撮影者が見ているかをカメラが自動的に検出してピント合わせを行なう。

思い通りの構図で思い通りの場所にピントの場合、より人間の目の感覚に近いカメラである。(8・9毎)



マイクロ波で燃料無し飛行に成功

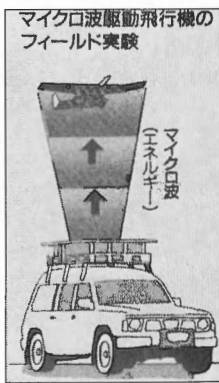
電子レンジに使われるマイクロ波を地上から送り、そのエネルギーで模型飛行

機を飛ばす実験を京都大学超層電波研究所センターと文部省宇宙科学研究所が神奈川県横須賀市で行ない、四〇秒間の飛行に成功した。

世界でも二例目で、人口衛星に代わる電波の中継基地や環境観測、災害監視システムなどに利用できる。

実験で使ったマイクロ波は波長が三三〇センチの短い電波であり、雲や雨に邪魔されずに、何十キロも先まで届くために、エネルギーを送るのに便利である。

模型飛行機はプロペラ式で、前長二メートル、重さ四キロ、機体の下に二〇個の円形アンテナを取りつけ、受信したマイクロ波を整流器で電流に変え、プロペラのモーターを動かす仕組み。マイクロ波を送り続ける限り、いつまでも飛び続けることができた。(8・29誌)



温暖化を止めた珊瑚礁

約一億年前の白亜期に太平洋海底で起きた巨大噴火が地球温暖化を招いたが、空気中の炭酸ガスを吸収する珊瑚礁の成長が温暖化の暴走をくいとめたという仮説が京都市で開かれた万国地質会議に報告された。

日米仏独など七カ国とヨーロッパ科学財団と独立国家共同体が進めている国際深海掘削計画の八年間にわたる成果である。

ニューギニア北の赤道太平洋海底にある「オントン・ジャワ海台」と呼ばれる台地状の海域に巨大噴火の痕跡が見つかった。この噴火のために海底が盛り上がり、火山から噴出した炭酸ガスにより温暖化が進んだ。東大海洋研究所の平朝彦教授は、この温暖化を止めた主役が、珊瑚礁であると推定した。(8・27誌)

低温核融合・国が本格研究開始

通産省・資源エネルギー庁は低温核融合の研究に来年度から本格的に取り組むことを明らかにした。

資源エネルギー庁は研究者、電力会社、大手電気メーカーとの「新水素エネルギー検討会」を発足させ、低温核融合の有効性について検討を進めてきたが、ついに「メカニズムは不明だが、熱が発生していることは間違いなく、発電はできなくても電池などに使える可能性は十分にある」との結論に達した。

むこう五年間で数十億円の研究費を投じ、来年度はまず①熱を安定的に発生させるメカニズムの解明②正確な測定手法の確立③反応の理論的分析——を柱に、実用化に近づける為の基礎研究を行なう方針だ。(7・10誌)

トキの人工ふ化、世界初成功

中国の北京動物園で、絶滅の危機に瀕している国際保護鳥、トキの人工ふ化に世界で初めて成功した。

ふ化したのは三羽で、すでに飛ぶことを覚えるなど順調に生育している。

トキは日本では新潟県佐渡のトキ保護センターに二羽いるだけとなっており、中国の人工ふ化成功は大きな朗報になる。(7・3誌)

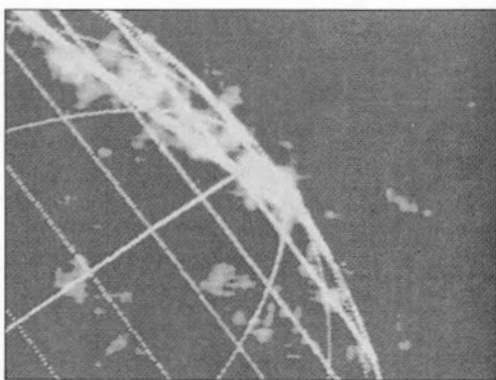
エイズ新約ODI、承認される

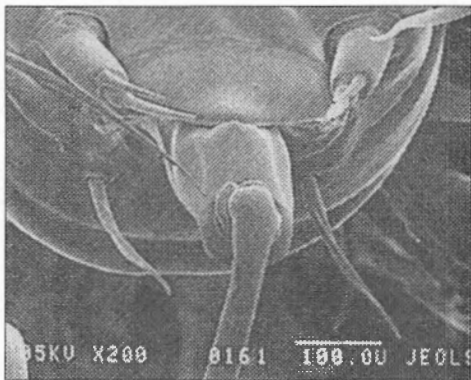
厚生省は第二のエイズ治療薬として注目された「ジダノシン(DDI)」を正式認可した。新薬の認可は通算二年はかかるが、今回は申請からわずか五カ月という異例のスピード認可である。

DDIは、すでに認可されている抗エイズ薬アジドチミン(AZT)と同じく、エイズウイルスの増殖過程に必要な逆転写酵素の働きを阻害する作用がある。根治薬ではないが、感染者の発症予防や、発症した患者の病状悪化を食い止める効果がある。(6・4誌)

木星のオーロラを撮影

欧州宇宙機関は木星の北極に出たオーロラの写真を発表した。地球周囲軌道を回るハッブル宇宙望遠鏡で撮影したもので、雲状に見えるのがオーロラである。地球では南極と北極に見られ、木星、土星、火星、金星でも存在が確認されている。(7・3誌)





▶糸を出す蚕の口の電子顕微鏡写真。できたばかりの絹糸が下に伸びている。

蚕の糸は最先端技術

農水省の農業生物資源研究所と蚕の糸昆虫農業技術研究所及び神奈川大学が、蚕の糸づくりが人間がこれまでに編み出した合成繊維の製造技術を取った複雑なメカニズムであることを解明した。

絹糸は蚕の絹糸腺で作られるタンパク質が主成分である。蚕は最初に口から出したこのタンパク質をどこかにくっつけ、自分の頭を分速五〇センチ以上ですばやく動かすことで体内のタンパク質を次々に引きずり出して、太さ約一〇ミクロンの丈夫な糸を作る。このとき水分が急激に蒸発するので糸は多孔質となり、染色し易くなる。また頭を8の字に振るので糸には微妙なよじれができ、絹独特の触感が生まれる。

蚕の動作で使われるエネルギーは少な

く、一〇種類ほどの最先端糸技術を同時にこなしているという。(7・17朝)

初の性交換手術

北京市の北京第三病院は男性の精巣と女性の卵巣をお互いに交換する、世界初の性交換移植手術を実施した。

「元男性」には拒絶反応を防ぐ免疫抑制剤が投与され、また「元女性」には勃起能力を持たせる手術が必要だが両者とも普通の性生活が可能である。ただし、生殖能力はない。(7・24読)

CDの情報量が従来の三倍に

ソニーは光電子光学分野で今世紀最大の難関とされていた青色半導体レーザーの開発に世界で初めて成功した。これによって、コンパクトディスクの情報量が現在の約三倍になり、音声だけでなく、映像やデータを含めた複合的な記録が可能になる。

半導体レーザーは、光ディスクに情報を書き込んだり、読み取ったりする「光の針」である。現在実用化されているのは、波長の長い青色半導体レーザーだが、波長が短いほど「針先」が鋭くなり、情報量を増やせるため、波長の短い青色半導体レーザーの開発が急がれていた。

この青色半導体レーザーはレーザー発振を起こすセレン化亜鉛をセレン化硫化亜鉛マグネシウムという半導体物質でさまざまな層構造である。(7・22読)

漢方薬がエイズにきく

中国の科学者が漢方薬でエイズによる死亡率を従来の約六〇パーセントから一二パーセントに低下させたといっている。中国は海外で漢方薬によるエイズ治療を行っており、一万人の臨床治療で三パーセントに免疫の改善が見られ、患

者の多くがHIVウイルステストで陰性に変った。(7・19毎)

雌雄同体のクマゼミ発見

雄と雌の両方の特徴を備えたクマゼミを大阪府門真市で小学生が見つけた。鑑定した大阪市立自然史博物館によると、雌雄型の昆虫はチョウウなどではあるが、セミでは世界でもニュージールランドで一例報告されているだけで非常に珍しいという。

このクマゼミの腹部の左側は雄の特徴である腹弁(発音器の共鳴板)があるのに、右側には腹弁がなく、雌の特徴とされるだいたい色がかった色をしていた。(8・9誌)

チョウウの鱗粉はなぜ規則的か

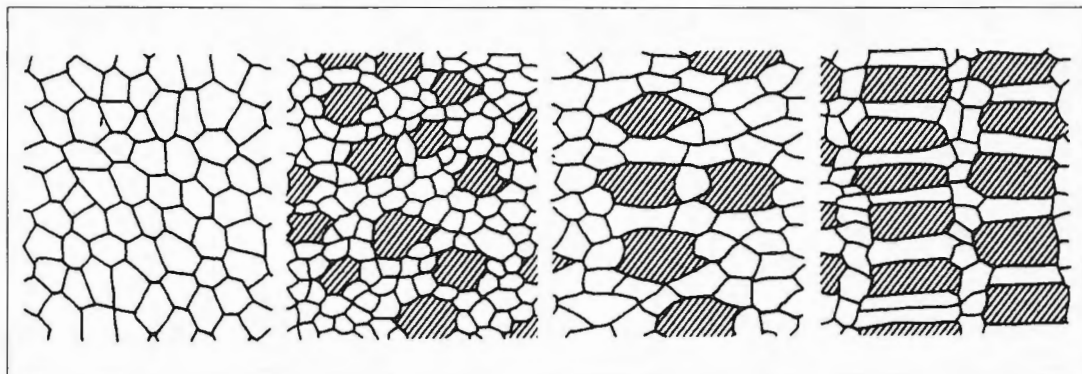
チョウウやガの羽に付いている鱗粉の規則正しい配列パターンがどのように形成されるかを、生命誌研究館設立準備室の吉田昭広さんが明らかにした。

チョウウやガの文様は規則的な並び方を示す鱗粉の色で描かれている。鱗粉の配列パターンは羽がサナギの殻の中で蛇腹のようにたたみこまれた状態で成長しながら完成する。

まず六角形に近い、ほぼ同じ大きさの細胞の集まりから、やがて黒っぽく見える大きな細胞が出現する(図参照)。黒い細胞は細長くなり、隣には白っぽい細長い細胞が現れて、両者がきれいな列を作る。二種類の細胞は色も形も区別がつかなくなり、それぞれが鱗粉になる。

吉田さんは、黒っぽい細胞が一、二個おきに出現するのは、どの細胞も黒い細胞になろうとするのに、少しでも早く黒くなりかけた細胞が隣の細胞を黒くさせないという「競争阻害」が働くのではない

鱗粉の配列パターン形成過程(←100分の1mm)



いかという仮説を立てた(7・21朝)

日本GAP栃木支部会員森島隆氏(三才)は、佐渡が島に行った際、四機のUFOを目撃した。この内の一機はなんと二時間四七分にもわたって目撃され、森島氏はテレパシーにより交信した。以下はその時の様子。

佐渡が島への旅

森島氏は、小学生の頃から特異な体験を持ち、その影響もあつて宇宙の知的生命体に興味を持ち続けていた。長年、UFOについて個人的に研究していたが、今年からGAP栃木支部へも顔を出すようになった。それから、UFOらしきものを数回目撃するようになり、彼らとのコミュニケーションは、いづれ行なえるものと思うようになった。

森島氏は、某国立大学の大学院で児童教育学を専攻し、その研究の一部は専門雑誌にも紹介されている。大学に残ることを勧められるほどに熱中したが、現在は、ご両親の運営する保育園で事務をとっている。

彼の趣味の一つが旅行である。「旅は、心身の充電であり新たな活力の原動力だ！」という。今まで日本国内でほとんど行かなかつた所はないというほどに旅をしている。しかし、観光名所であるのに行つたことのない土地が

あつた。それが佐渡が島である。今夏を利用して、行きたいという思いから平成四年八月二七日(木)から二九日(土)までの旅を企画した。行くのはもちろん森島氏一人である。愛車に旅行道具一式を積み込んで二七日の早朝栃木県を出発した。

車は快調に進んだもの予定していたフェリーに乗り遅れ、直江津午後一時五〇分発のフェリーにより佐渡が島の小木へ向かつた。小木から宿根木を散策し、素浜キャンプ場に着いた時にはすっかり暗くなつていた。しかたなくその日は、そこで一泊することになった。

森島氏の旅行は宿をとらない。気分の良いところを探しては車の中で寝るのである。まさに、その土地の印象を体感できるわけである。UFOのことが頭に浮かんだけれども、この日は何も目撃できずに終わつた。

UFO出現!

翌朝、二八日(金)、佐渡が島の北方へ向かつて出発した。名所旧跡を見ながら、佐渡が島の北端に位置する二ツ亀に着いたのは、午後の六時四〇分であつた。今日は両津市でゆっくり宿泊したいと思つている。道もすでに薄暗いので急いで車を走らせる。しかし、

どうも外が気になつてくる。外に出ないわけにはいかないとつた気分である。そこで、道路(海岸線を走る幹線道路幅約五m)の脇が少し広くなつてゐる所を車を止めて外へ出た。ここは二ツ亀から両津市へ向かう行程の約六割り進んだ馬首というところである。

空は一点の曇りがないほどの快晴である。南の方に向かって満天の星を見てみると、それが急に二つに割れた。両目ともに二・〇の視力は、小さな動きを見逃さなかつたのである。おそらくこれは星と同じ大きさで重なつていたUFOが移動したためと思われる。

このUFOは、見かけ上二等星程に見え、南南東仰角四十五度あたりに見える。時間は午後七時頃である。UFOは、上昇したり、ジグザグ飛行をするなど動いては止まり、止まつては動きながらほぼ同じ位置にいる。森島氏は、人工衛星等の物体かと疑いながらも、暗い街灯の中でメモを取り始めた。いつ消えるかわからない物体をできるだけ正確に記録に残したいと考えたからである。このメモは目撃体験中書き続け十数ページにもわたつてゐる。

テレパシーに反応するUFO

しかし、物体はいつまでも消えない。そればかりか、自分の考えに反応するように動くのである。これまでに二〇分近く経つてゐるだろうか。当初は興奮していた森島氏も余裕が出てきた。

そこで、テレパシーを送ることを思いついたのである。初めに「こんにちは」とあいさつをした。「私は、あなたを信じます」と送ると、それを肯定するかのように右まわりに回つて見せた。すると、全身が感謝の気持に満ち溢れ、喜びに震えているのがわかつた。手は、自然に合掌をしている。「うれしいです。ありがとうございます。」と何度も頭を下げながら送り続けた。そこで、「もっと近くに来てください」と送つてみた。しかし、これはかなえられなかつた。

新しい時代が来る!

次に、「これから、新しい時代が来るでしょうか?」と質問した。すると、UFOは、二段階下がりながらYESという強い印象がきた。しかし、偶然かも知れないという気持がなかつたわけではない。そのために質問をいろいろ変えたり時間をおいたりして偶然性を排除しようとしたが、反応に変化はなかつた。これは特別な時代の到来を意味するらしい。

また自己紹介もしてみた。「私は宇都宮市の森島です。今、保育園で未来を担う子供達の教育をしています」

すると、それを知つてゐるかのようになり、肯定的に左に回転し喜んでゐるようだった。どうやらUFOの回転は肯定を意味するらしい。

UFOとテレパシー交信に成功

〈宇宙からのメッセージか〉

渡辺克明

日本GAP栃木支部支部長

を考えていたが、こんな状況の中に出
現したとき、なぜか親しみがわき、上
空のUFOとの関係があると感じた
という。

目撃証人探し

ここまで、相当の時間が経過してい
る。おそらく午後八時三〇分を過ぎて
いたに違いない。そこで、これらを証
明してくれる他の目撃者やビデオカメ
ラで撮影してくれる人が必要だと感じ
た。



森島隆氏

「帰りますので何か証をやつてくださ
い」といったけれど特別な動きがない
「また会いましょう。」と送ると、明確
なYESの動きをしてくれた。「ありが
とうございます」といって、とりあえ
ず車で五分程南下して和木へ入り、ま
ずは自宅に電話を入れた。
「もしかしら、帰らないことがあるか
も知れないけどよろしく！」とお母さ
んに伝えたという。これは、長時間に
わたるUFOの目撃から、役らが迎え
に来るのではないかと感じたからだ

▲森島氏が撮影したUFO(中央の光体)。

いう。森島氏が驚喜していたことがう
かがえるというものである。

電話を切つてから夕涼みをしている
お爺さんを見付け出した。まだ見え続
けるUFOを見ながら、「あの方にビデ
オを撮ってもらおう！」と、森島氏は
声を掛けた。この人は、両津市に住む
小川静馬さん(三才)で、ここから目
撃できるUFOを二人で確認しあつた。
筆者が小川さんに事実関係を確認した
ところ、確かにその日、光体を目撃し
たとのことであつた。

新聞社に問い合わせる

森島氏は、小川さんにビデオカメラ
の有無を聞くが、近くに誰も持つてい
ないといわれ、地元の新聞社に電話を
した。二回目にかけて朝日新聞両津通
信局では記者の内藤章氏が対応してく
れた。しかし新聞社なのでビデオカメ
ラはないし、都合が悪いので今からは
行けないという。そこで明朝会うこと
を約束し、カメラ撮影を促されて電話
を切った。時間は午後九時三〇分を過
ぎていた。しかしUFOは相変わらず
見え続けていた。そこで暗い場所を見
付けて最後の一枚を撮影した。

しだいに星空が不鮮明となり、森島
氏も疲れてきたことから、名残惜しみ
ながらもこの地を去った。時計は午後
九時四七分を指していた。

宇宙からのメッセージ

以上が森島氏の「UFO体験」の概
要である。目撃の翌日は、朝日新聞両
津支局の内藤氏と一時間ほど会見して
いる。筆者はこの事実関係についても
内藤氏に電話を入れ、事実であること
を確認している。

今回の目撃は、馬首から南南東の方
向、つまり姫崎から弥彦の方に見えた
ものだが、おそらく馬首と弥彦の間の
海上上空に出現したものと思われる。
そのため長時間の目撃が可能であつた
と推察される。もちろん森島氏自身の
特殊な要因があつたことも否定できな
い。

いずれにしろ、この貴重な体験から
私たちは多くのことを教えられた。

一、これから新しい時代が来る。
二、皆の前で今後もUFOは出現する。
三、宇宙的視野に立ち、人類の平和を
考えることの重要性。

四、異星人は地球人を見守り続け、交
流の機会をうかがっている。

五、UFOと音楽の不思議な関係。

まだまだあるけれども、今回のUFO
目撃は、栃木支部会員森島隆氏を通
して、地球人への示唆に富んだあたた
かい「宇宙からのメッセージ」であつ
たと解釈したい。

大会開催中に UFFOが出現！

支部代表 高梨千光

さる八月九日、雄大な富士の麓、三島市市民文化会館において、日本GAP IZZU（伊豆）支部発足記念大会が盛大に開催された。「当地に本格的な支部を」という熱心な会員の潜在的願望が見事に実現したのだ。この地に日本GAP支部が発足したことの意味は計りしれない。また重責をここに担ったからには、久保田会長を誠心誠意ご支援する覚悟である。

大会開催に際しましては、久保田会長の絶大なるご高配とご支援をたまわりました。会長には感謝の念がつきることはいまありません。

御大久保田会長が東京本部役員諸氏をお供に新幹線で三島駅にお着きになるころには、台風接近の心配も消え去り、雲も吹き流れ、紺碧の空がはてしなく広がり始めた。

会場には、万難を排して出席された多士済々総勢四四名が集まっていた。

最初に赤池澄夫副支部代表の司会により開会の宣言がなされた。赤池澄夫氏は新支部発足の立案者で、今大会に

おいても、終始大活躍された。次に不肖高梨が皆様にご挨拶を申し上げた。

皆様は当支部に関係の深い方々ばかりで、かつての思い出が走馬灯のようにかげめぐり、感動の念をおさえることはできなかつた。優秀な人材を誇る東京本部役員の方々。林代表を先頭とする名古屋支部の方々。清水代表と横浜支部の方々。山梨からはベテラン清水南氏も応援にかけつけてくださいました。ほかのどなたもゆかりの深さには厚くお礼を申し上げます。

それに全国の各支部、会員の皆様から多数のお祝いの電報、激励のお手紙、お電話を多数いただき、日本GAP会員の皆様のご厚情には感謝の気持ちでいっぱいです。

待望の日本GAP会長の大講演は、「UFFO問題の意義とアダムスキー哲学を生かして人生で成功する方法」と題した素晴らしい講演で、何万人もの人にお聞かせしたいほどの内容だった。

●「万物が創造主である」というフィリングを起こせば宇宙的に幸福な人生をおくれる。

●宇宙の意識すなわち創造主を第一に自覚しよう。これをたえず自覚し、すべての行動において、念頭におくことが大切。

●聖書時代から続いているスペース・プログラムは人類にとっても日本GAP会員にとっても最重要事である。近い将来、他惑星文明と地球との友好関係は日常的なものになる。

●アダムスキー哲学を実践するには、「信念の力」「希望の力」「絶対に諦めない力」の言葉を思い出し、意欲を持続することが大切なことである。そうすれば宇宙的なサクセスストーリーが完成されるだろう。

まさに核心にせまるお話である。紙上では報告できないが、すべてGAP会員にとつて関心の深いお話ばかりで、出席者の宇宙的意欲は大いに高揚した。この講演は宇宙的感覺にみちあふれていて、久保田会長は、特に「創造主」について意識的にお話をされたが、それには、ある訳があつたことを後にうかがい驚嘆してしまった。

●講演の宇宙的波動の余韻がさめやらぬまま質疑応答にはいった。久保田会長が、質問に丁寧に答えておられる。まさにその最中、小生の前方に展開する大きな窓のむこうに、無翼のずんどうの物体がするすると飛んでいた。以前、デザートセンターで同様の物体を目撃したことが思い起こされた。

この他、大会終了後も、複数の方が、UFFOを目撃された模様である。

感動の大会もつづがなく終わって、今度は会場を三島プラザホテルに移し

夕食会を催した。ライラックルームと名づけられた華麗なる英国調の部屋で皆様は美味しい食事をたづぷり召し上がり、楽しく懇談されていた。二次会三次会四次会とGAPの夜は楽しくふけていった。

翌日は新幹線で帰京される会長ご一行をお見送りして、「新しい時代の予感・夢と希望にあふれる大会」の全日程は終わった。

このように宇宙の真実と法則を学び理解する人々がお互いに激励しあい集うことは大変素晴らしいことである。このような機会を与えて下さる日本GAP会長久保田八郎先生は偉大である。

次回は、IZZUの本望の一環、UFFOご出現を期待しての翌日観光を含めた大会を盛大に開催したい旨を久保田会長にご提案申し上げております。どうぞご期待ください。今大会でお世話になりましたすべての方に感謝申し上げます。ご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

記念すべきIZZU支部大会が盛大に挙行された。代表の高梨氏はGAP最古参クラスでUFFO目撃の達人。高次元の雰囲気包まれた会場で、筆者の講演中にふと窓外を見た氏は母船型UFFOを発見して内心驚喜したという。これも支部設立に対するスペース・ピブルの祝福に違いない。

久保田八郎



▲左上は高梨代表の挨拶、下は久保田会長。

右上は夕食会、右下は左から高梨代表、久保田会長、清水南氏の乾杯。 撮影/松村芳之

祝賀

日本GAPIZU支部大会



秋田でもUFOが出現!

九月一三日、秋田市文化会館

支部代表 伊藤正治

秋田市文化会館第五会議室において、第4回日本GAP秋田支部大会を開催した。久保田先生とは二年ぶりの再会でしたが、相変わらずの生気溢れる容姿からは、光り輝く波動が感じられ、大いに吸収したいという思いに駆られた。

さて、大会は静粛で熱気溢れる雰囲気のもと、松田祥子氏の司会により進められた。

最初は会員佐藤春雄氏の「GAPと私」という演題で体験発表が行なわれた。氏はGAPとの出会いに至る経緯から献本活動による成果等について語られ、ミスター民謡のイメージが強い方であるが、含蓄のある感動を覚える体験講演であった。

続いて、久保田先生による「アダムスキー哲学と人生成功の秘訣」という演題によるご講演があった。大宇宙の創造主は、人体を構成している六〇兆の細胞に対して常に宇宙の意識を通して万物一体化を呼び掛けている。細胞を構成している原子の中心にある原子核には大宇宙のスパーク(生氣、活気、気あるいは宇宙の魂)が秘められている。テレパシー能力は万物一体感を体験することによりおのずから備わる等と説かれ、聞く者全員の魂に食い込む

絶対真理のご講演は圧巻だった。

ア氏は原子は記憶を持つと説いているが、久保田先生の原子核スパーク説はミクロの世界からマクロの世界へと進歩させた考えであり驚異的な思想と思われる。最後に大宇宙瞑想の実践指導が行なわれ、全員の気持をリラクセスさせ、エネルギーの充電がなされた。休憩後写真撮影、質疑応答と続き、いつものことながら先生の博識ぶりには驚嘆させられた。

夕方六時から場所を移して夕食会が盛大に開かれた。久し振りに再会して、つる話をしたり、歌ありピアノ演奏ありの楽しいひとときだった。

翌日は快晴の下、仁別国民の森で、秋田名物キリタンポを食べながら、天然杉の放つ微細な波動を全身に受け、心身をリフレッシュさせた。途中、涙を流すマリア像を見学した。各人それぞれの印象を受けられたと思う。

また今回は久保田先生の助手として東京本部役員の加藤純一氏が見えた。先生のカメラバッグその他の荷物の運搬や付き人として大活躍される氏を見ると、さすがはもと秋田出身者だけありと意を強くした。またビデオカメラによる撮影係として伊藤芳和氏も東京から見えた。

以上のように全日程を無事終了した。久保田先生をはじめご出席の皆様本当にありがとうございました。またの再会を楽しみにしております。

二年ぶりに秋田市を訪れたが、いつ来ても北国特有の清澄透明な空気に心身ともに洗われるような爽快感を覚える。

秋田支部の皆さんは実におおらかに構えたところがまったくなく、質朴にして率直、カラツとした明るさがある。日本海側沿岸というのは筆者の郷里が典型的だが底知れぬ陰湿さを滲えた土地が多いのに、秋田は根本的に性格の異なる陽気さに満ちている。

また「秋田美人」というブランドにそむかず、ハツとするような色白の美しい女性が多いのは、いったいどうしたことか。美人といっても人形のような単なる形骸ではなく、目鼻立ちの整った気品のある娘さんが多い。東京へつれてくれば一流のファッションモデルになるようなのが街にうようよしている。このような印象を受けた街は、

筆者の知る限りポーランドのワルシャワ、イスラエルのエルサレム、それに混血の美女の多いメキシコ市である。大会は充実した立派な運営のもとにすめられた。人数は大聴衆ではないけれども、聞く耳を持たぬ数千の客よりも、真実、宇宙の法則のもとに生きようという熱意のある少数の人々が筆者にとつては有難い。といつても上下

に入れ歯をはめており、しかもそれがガタガタになっているために言葉が明晰に発音できず、気になって仕方がない。予定した原稿の三分の二ぐらいし

か話せなかつたが、とにかく全力を傾注した。大会進行中に松岡圭一君が窓外の空中にUFOが出現したのを目撃したと、あとで言っていた。

夕食会も楽しく立派だった。すでに皆さんは立食形式になれているせいか、マナーは白人社会のそれに劣らない。いずれの演芸もプロ級だった。

翌日の観光は以前にきたことのある仁別国民の森で、秋田名物のキリタンポを賞味しながら野外の楽しいパーティーが開催された。この日は歓喜に満ちた好天で、碧空の太陽が燦然たる光を注ぐ樹林のそばに透明この上ない小川が流れる。この水は飲めるらしい。ここで加藤君が上空の雲間にUFOを発見したのだが、筆者に知らせてくれたときには見えなかつた。

帰途は湯沢台の「涙を流すマリア像」の拝顔の榮に浴した。これも二度目である。これは地元の彫刻家・若狭三郎氏が製作した桂の木彫りの像で、一九七五年一月四日に像の目から涙が出始めて、八一年九月一五日まで、断続的に一〇一回ほど落涙したという奇跡的現象で名高い。大学で分析した結果、塩分を含む人間の涙と同一の物質であることが判明しているというが、原因は不明。

素晴らしい三日間であった。お世話になった方々に深甚の謝意を表し、支部の発展を祈りたい。

久保田八郎

日本GAP
第4回秋田支部大会
1992.9.13



◀写真は左上から講演中の久保田会長、会場風景二点
右上より夕食会、仁別国民の森で空を観測、キリタンボパーティー！



UFO・異星人・地球人

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

(完)

（一九五八年、米ミズーリ州カンザス市における講演より）

異星人に対する誤解と偏見を打破し、地球の環境問題に警告を与えたこの内容は、今も重要な意味を帯びる。

恐怖を知らぬ赤ん坊は安全

ところで皆さんは、ジャングルや荒野などで赤ん坊が食べられたという話を聞いたことがあるでしょうか？ 何らかの理由で一人置き去りにされた赤ん坊が、ライオンやトラなどに食べられたという話を私は一度も聞いたことがありません。赤ん坊は、決して動物に食べられないのです。なぜなら、赤ん坊は恐怖を知らないからです。

一方、大人の人間がジャングルの中で眠っていたとしたら、どうなるでしょうか。猛獣が人を襲って食べた話などを知っている本人のまわりには恐怖と警戒の大きな輪が放射されています。本人のまわりの大気がその想念で充滿

そういった事実がたくさん報告されているのです。

そして、異星人たちはこの法則を当然熟知しています。そのため彼らの惑星の野性動物は、もはや人間にとつて決して猛猛な動物ではありません。ですから、彼らはどんなジャングルの中でも平気で入って行きます。そしてもちろん何事も起こりません。

異星人も肉を食べる

さて、食べ物の話にもどりますが、彼らもやはり肉を食べます。もつとも食べると言つても、ほんのわずかです。基本的には菜食主義者といつてもいいかもしれませんが。まあ九五パーセントが植物性の食品といつたところでしょうか。肉類は魚その他を含めても五パーセントに満たないかもしれません。でも肉も間違いなく食べています。そこで、中には「うーん、動物を殺して食べるなんて、罪じゃないか」などと言い出す人々がいます。しかしそんなことを言い出す人々は、この問題の背後にある生命の本質に関する理解が全くできていない人々です。

まず第一に、もし動物を食べるのが罪であるならば、キリスト教の教義そのものが完全な誤りだということになってしまいます。あるいは、肉を食べるというクリスチャンの全てが罪を犯しているということにもなるでしょう。

ちなみにクリスチャンは、自分たちが肉を食べることの根拠を聖書の次の場面に求めています。

ペテロが荒野で道に迷い、餓死同然の状態に陥ったときのことです。野性のウサギさえも見当たりません。いるのは野鳥のみです。そこに神が現れ、餓死してしまう前に野鳥を殺して食べるようにと言いました。それに対してペテロは「いまだ不浄のものを食べたことがなく、とても食べられません」と答えています。しかし神は「私が創つたものはすべてきれいであり、食べるのに適している。さあ殺して食べるのだ」と語っています。

もしかししたら皆さんも、動物を殺して食べるということに少しひっかかりを覚えておられるかもしれません。しかしながら姿を持つものは常に変化を続けています。そして私たちは、あるものの形を変えることはできません、決してその本質である生命を破壊することはできないのです。

生命は高次元な形態に昇華する

そんなことは誰にもできません。生命がその活動のための根拠として形あるものは変化しても、本質である生命は決して絶えることがないのです。これは、この宇宙に存在する極めて重要な法則の一つであり、地球上のあらゆる宗教が学びそこなった法則でもあ

しているといつたらよいでしょう。そして当然、枕元には銃などの武器が置かれていません。

動物はとても感知力が優れています。そんな状態で寝ている人間のそばをライオンが通りかかったならば、ひとたまりもありません。人間は食べられてしまうのです。

そのライオンは、その人間の発している波動を敏感に感知し、もし先に襲わないと自分が殺されることになるだろうと考えます。そこで、その人間が目を覚ます前にいち早く襲いかかることになるわけです。

しかし、赤ちゃんは大人の人間のよきな思考をめぐらしません。ですから、赤ちゃんが眠つていてもライオンは何もせずに通りすぎてしまいます。実際、

ります。

たとえば、今ここにいらっしやるご婦人方の多くは、おそらく美しく輝くダイヤの指輪を着けていることでしょう。そのダイヤは、いったいどのようなように出来上がったと思えますか？

まず、最初それは何の変哲もないただの炭素でした。やがてその生命はその姿を捨て、別の姿の中に入ることでの表現段階に歩を進めました。そして以後も次々とさまざまな姿の中に移り住み、最終的には虹色の光を発して美しく輝く澄み切ったダイヤモンドの段階、つまり、自身の生命の最高レベルの表現段階へと歩を進めました。そ

して今やその最高レベルの姿を通じて、鮮やかな輝きとともに、自身の生命のすべてを生き生きと表現しているのです。

私たちは、表面に現れた姿のみを見、その姿が変化することを哀れみます。その変化によってその本質である生命がより高度に表現されることになるというところに全く気づいていないためです。

生命は、それを表現するための媒体を必要とします。そしてそれは、さまざまな媒体を次々と用いて、よりいっそう高度な表現を目指します。他の惑星の人々はこの自然の法則を見事に学

◀アダムスキーは望遠鏡・カメラ等の光学製品に熟達していた。左の写真はムーヴィーカメラを構えるアダムスキー。場所はヨーロッパなるも詳細不明。



んでいるのです。

木を例にとつてみましょう。もし私たちが、何の目的もなくただ木を切り倒したとしたら、それは間違いなく罪です！でも、もし私たちが、木を切り、それから板を作り、続いてその板を用いて、例えばヴァイオリンを作ったならば、それによって私たちは、その木をより高度な表現の段階に高めてあげたことになるのです。

結局その木はヴァイオリンとなつて、木のままでは決して成し得なかつた素晴らしい奉仕を行なえることになりました。その木は、それ自身をヴァイオリンに捧げました。さらにそのヴァイオリンは、それ自身を人間の意思に捧げます。そして人間の意思は、それから美しいメロディーを引き出し、人々の心を高揚させます。

このように、あらゆるものが、より高度な表現、より大きな奉仕に向かつて、次々と自分自身を捧げ、姿を変えて行くのです。

しかし、私たち地球人は、姿のみを見、その変化をただ哀れむのみです。私たちが物質至上主義に陥つてしまつた理由が、ここにあるのです。それよりも、私たちは姿の本質を見るようにしなくてはなりません。

物質の本質は不変

異星人たちは、彼ら自身のことをと

てもよく学んでいます。彼らは自分の本質が、自分の姿を通じて表現されている生命そのものであるということ、さらには、その本質を破壊することは誰にもできないということをしつかりと学んでいます。私たちも同じことを学ばねばなりません。

物質の本質は決して破壊され得ないというところは、私たちの科学もこれまでに何度となく証明してきたことです。それが破壊されることなど絶対にないのです！

もちろん、私たちは木をヴァイオリンに変えたり、家に変えたり、椅子に変えたり、テーブル、ピアノ、その他、様々なものに変えることができます。でも、その本質を破壊することは誰にもできません。本質は決して絶えることがないのです。

ここで、ある程度の常識をお持ちの方であれば、こういつた行程は何らかの「導きの力」によって導かれているはずだという結論に到るでしょう。ある者はそれを「大いなる英知」と言い、またある者は「至高の力」などと呼んでいます。何と呼ぼうと、そんなことは問題ではありません。とにかく、あらゆる本質、つまり生命を、次々と異なつた姿の中に導いている「知性」が存在することは疑うべくもありません。そしてもちろん、その「知性」が永遠に存在するものであることは言うまでもないことです。

いずれにせよ、生命の永遠性は、科学も明確に証明していることです。生命の破壊などというものは絶対に起こり得ないことなのです。他の惑星の人々はこのことをとても良く理解しています。とても良くです！ 私の次の質問に対する彼らの答えは、それを見事に証明するものでした。

堂々と死んで転生する

あるとき私はたずねました。「例えば、あなた方の宇宙船が今まさに地球人の攻撃を受けようとしているとします。あなた方がいる場所は、私たちの武器の充分な射程距離内です。そんな状況が訪れたとき、あなた方は自己防衛のために攻撃をしてくるのでしょうか？」

もちろん、彼らの宇宙船には、攻撃の機能が備わっています。ただしそれは銃ではありません。光線です。普段は船体の推進その他の様々な用途にいられているのですが、いざとなれば極めて優秀な武器ともなり得るものです。

しかし彼らの答えは、「ノー」でした。

私なぜかとたずねると、彼らは言いました。「理解が不足している人々をやり込みたりすることは、私たちの意に反することだからです」

かつて、イエスも同じようなことを言っています。

「父は、自分が何をしているのかわらない者たちを許すであらう」

彼らは、私たちに危害を加えたりすることのためにやって来ているのでは決まっています。

さて、彼らのその答えを聞いて私は言いました。

「ほう、すると、その結果、あなた方は死ぬことになりましたよ」

しかし彼らは言ったものです。

「いや、そんなことはありません。あなたから別の家に引越しても、あなたは死なないでしょう？ 地球の人々はそう信じていますよね？」

私が、「ええ、まあ、そうですが」と答える間もなく、彼らは続けました。

「それと同じことなのです。もしあなた方が私たちの家を破壊したならば、私たちはすぐに別の家に移ります。おそらくもっと良い家にね。いずれは引越すことになるわけですし、それに古い家よりも新しい家の方が居心地はいいでしょう」

それはつまり、こういうことです。今は快適な家でも、ときの流れとともに老朽化し、やがてはその快適さが激しく損なわれるときが訪れます。さらに、その間には、暮らしをより快適にするための新しい設備、機器類も多数開発されるでしょう。それらを装備した新しい家と比べると、古い家はま

すまず見劣りがしてしまいます。それはもちろん、あちこちを補修したり、古い設備を新しいものに変えるなどして改造することも、ある程度は可能でしょう。しかし、それは決して容易なことではありません。そんなとき私たちはどちらかと言えばその古い家を捨てて、最新式の設備が内蔵された新しい家に移り住むことを選ぶのではないのでしょうか。

私たちの肉体に関しても、全く同じことが言えます。見事な機能を果たし続けている私たちの肉体も、いずれはその機能を果たし得なくなり、そして、肉体が構成元素群へと戻るべき、そのときの訪れとともに、私たちは、次の肉体へと移動する(生まれかわる)のです。

この法則は、雨水の中にも見てとれます。天から落ちて来て水溜まりを作ったばかりの雨水は、私たちが飲めるほどに、とてもきれいな水です。しかし二三日もすると、それはほとんど腐ったりして、とても飲み水には適さない状態へと変化してしまいます。最初のきれいな状態は、もはやそこに残っていません。

そこで次に、何が起こるのでしょうか？ その水は蒸発して見えなくなります。どこに行ったのでしょうか？ 構成元素群へと戻ったのです。そしてそれは再び浄化されたのちに、また雨水として落下してくるようになります。

この世界のものばかりでなく、この宇宙全体のあらゆるものが、この行程を経ながら存在しているのです。私たちはこの法則の下で生きています。そして、一度私たちがこの法則を理解したならば、そのときから私たちはこの法則の「下」ではなく、この法則の「上」で生きることができるようになります。そしてそれこそまさに、他の惑星群の人々が実践してきたことなのです。彼らが私たちをはるかに遠く進歩を成し遂げてこられたことの大きな理由の一つが、この理解を得たことでした。

異星人を神様扱いにするな

さて、彼らは素晴らしい進歩を遂げています。それはそうなのですが、彼らは宗教を作るためにここにやって来ているわけでは決してありません。彼らは自分たちを天使に仕立て上げるためにやって来ているのではないのです。彼らはそんなことを決して望んでいません。しかしながら、そういつた誤った捉え方が今や世界中に満ちています。彼らを天使として崇め、ひざまづき、彼らの足にキスをしたがっている人々が実にたくさんいます。なんと愚かなことでしょうか！

彼らには自分たちを教祖にして宗教を作る意思など全くありません。事実、彼らは私に、地球人はあまりにも多く

◀一九五二年五月一日午前八時、アダムスキーが六インチ反射望遠鏡で撮影した別な惑星の母船。左の湾曲した黒い影は望遠鏡の筒によるケラレ。



の宗教を作りすぎたために、本当に良い宗教を一つも手にできないでいるとさえ語っているのです。それぞれが互いを混乱させ、決して究極の理解に至っていないというのが今の地球の宗教の実体です。人間の父性愛、人間の兄弟愛、そして創造主の父性愛。私たちが理解すべきことは、これのみです！そして彼らはこれをずーっと理解し続けてきました。

彼らは、私たちが進歩の速度を増すためにはこの理解が絶対に欠かせないと語っています。しかし彼らは決してそれを強要はしません。そしてそれは、彼らがここにやって来た真の理由でもありません。

異星人が地球へ来た理由

確かに彼らは私たちに彼らの知識を分かち与えることには意欲的です。私たちが「自分自身の手で」彼らの段階まで進歩できるようにと、彼らは意欲的に助言を与えてくれます。しかしながら、彼らはそもそも、そのためにここにやって来たのではないのです。彼らは別の目的のあるためにやって

来ました。そしてその目的は今でも変わっていません。この地球は今、ある大きな変化を体験しつつあります。今の状態にあり続けたのが二万六千年、今やこの地球はその周期の最終段階を迎えつつあるのです。そして地球観測

年を迎えて、地球の科学者たちはその変化を今、地球上から真剣に調査しています。

また、地球の変化は他の惑星の人々にとっても重要な問題です。いかなる惑星に起こるいかなる変化も、太陽系全体に確実な影響を及ぼすものであるからです。

地球が今体験しつつある変化も太陽系全体に確実に影響を及ぼすことになります。だから、その変化の様子を調査するために、彼らはやって来たのです。

そして、彼らは宇宙空間から、私たちの地球観測年は地上から、今、同じものを調査しているわけです。彼らがここにやって来た理由はまさにこの調査にあったのです。

ここで皆さんは、「もう一つ理由があるのでは？」とおっしゃるかもしれません。しかしそれは同じ理由の中に入られるものです。私たちはあるパワーに関する知識をかじりました。本質的にはそれは化学知識にほかなりません。なぜならば原子爆弾を構成するあらゆる元素が、つきつめればすべて化学元素であるからです。

私たちは、そのパワーに関する知識をひっつかじりました。あるいはほんの一部を知りました。そして、とてつもなく巨大なパワーを生み出すことに成功しました。しかし、私たちはそれに関して、ほとんどまだ何も知らない

言ってもいいほどののです!

ただ、私たちは幸運でした。その実験を本当にいいときにやったものです。その結果、私たちはその研究を、ほんのやり始めの段階で葬り去らずに済むことになりました。

しかし彼らは、私たちのその研究を引続き注意深く観察しています。彼らもまた進歩の過程で同じようなものを開発したことがあります。これは彼らから直接聞いたことです。

したがって、当然彼らはそれがどんなに危険なものであるかを熟知しています。そのため、この地球上で大きな戦争が発生しないように、彼らは常に目を光らせているのです。

核爆発の危険性を警告

そんな破壊的な爆弾が特定の地域に何発も連続して落とされたりしたら、もう、たまったものではありません。その衝撃により、その地域の地殻には大きな裂け目が生じるようになります。そして地球はそんな規模の裂け目ができると、すぐさま崩壊の危機に瀕することになります。

この地球にはアラスカからアフリカにかけてとても大きな裂け目が走っています。そして、それらの裂け目がそれ以上広がる、きわめて危険であることを私たちはよく知っています。私たちの科学はそれをよく知っているの

です。

それ以上の裂け目を作ってしまったえば、地球は一番の終わりです。そして、そうならないように、彼らは私たちに強く注意を促し続けています。

私の最初の本、『空飛ぶ円盤は着陸した』をお読みの方はよくご存じのことと思いますが、異星人たちは私たちに実に正確な情報を与えてくれてあります。例の砂漠における最初のコンタクトの時に、金星人オーソンは「ボーン、ボーン」と言いながら、原子爆弾によって地球が破壊されてしまうかもしれないと警告しました。そのとき彼は、私たちが大気圏外に送ったものは、やがて必ず地球に戻って来るであろうとも語っています。そしてそれが、今、まさにそのとおりになりつつあるのです。

現在、科学者たちは、この地球を取り巻いて存在している放射能のリングを確認しています。そして彼らは、それが地球にとっても悪い影響を及ぼすものであると語るとともに、その消滅を心から期待しています。新聞などでも報道されたことです。

ちなみに、彼らがその「消滅」を期待しているということは、つまり、そのリングが自然のものではないということの証明でもあります。もしそのリングが自然のもので、そこに以前から存在していたとすれば、その消滅を期待したところで、それは全く無意味な期待であるということになります。そ

の場合それは今後もそこにずーっと存在し続けるでしょう。したがって、その消滅を心から期待しているということとは、それが人工的なものであることの確かな証明なのです。

そのときオーソンは言っていました。私たちが送り出した例の危険な物質は、決して宇宙のかなたに飛び去ってしまったりはしない。それは、地球から一定の距離の空間でストップし、そこに留まり続けるだろう。もし私たちがその物質を次々と送り続けたならば、それはそこにどんどん蓄積されてゆくことになる。そしてやがて飽和状態を迎え、地球に落下して来る。

それが今まさに現実のものとなりつつあるのです。この地球のはるか上空には電離層と呼ばれる大気の層が存在しています。電離層とはいわばハエなどが入って来ないように皆さんの家の窓に取りつけられている網戸のようなものだと考えて頂ければいいかと思います。

それは、ガンマ線その他の宇宙線群を濾過するフィルター・スクリーンの役割を果たしています。何百キロもの厚さのその層がさえることで、私たちにとって有害な宇宙線群の脅威が、極端に弱められることとなります。そしてその脅威は、さらに下層の雲の中を通過することで、より一層弱められ、結局、宇宙線群はほとんど無害なものとして地上に届くことになるのです。

そして今、そのスクリーンには、私たちが送り出した有害物質群がぎっしりと張りついているのです。それはまるで泥を投げつけられて、それによつてすべての目が完全に塞がれてしまった網戸のような状態です。

今後も引き続きその有害物質群がそこに蓄積し続けたならば、重力と宇宙線群の圧力に耐えきれなくなり、まずその一部が剝がれ落ちることになります。あとはグムの一部が決壊したときと同じです。他の部分が次々と剝がれ落ち、もの凄い勢いで地上に落下して来ることになるでしょう。そして、地球の科学者たちは、今、そのことに大きな懸念をいだいているのです。

オーソンは実に率直に多くのことを語ってくれました。そして、彼がこうなると語ったことは必ずそうなるのです。

重力はどこにも存在する

それから、あの惑星探査機パイオニアも、『ポイズ (Poise)』が語ったあることを証明しています。私は異星人たちを、よく『ポイズ』と呼びますが、それは、彼らが本質的に私たちと何ら変わることはない人々だからです。彼らも私たちをそう呼んでいます。

かつて彼らは、重力がゼロの状態など決してあり得ないと私に語りました。重力は宇宙空間のどんなところにも存

在しているのです。そしてそれが、パイオニアによって見事に証明されることになりました。

まず、あのパイオニアは九万一千マイル上空まで打ち上げられ、七万九千マイルのところまで戻されました。

もし科学者たちが予想したとおりに物事が進めば、あれはその高度にいつまでも、留まり続けるはずでした。あれが地球から離れることも、地球に戻って来ることも永遠にないものと考えられていたのです。当初彼らは、それが完全に無重力の空間、つまり、完璧なニュートラル・ゾーンであると考えていたためです。

しかし、その予想は完全に覆されました。そうです。あのパイオニアは、徐々に地球に近づき、結局は確実に戻って来てしまったのです。あの空間においても確実に重力が存在することを知って科学者たちはとても驚いたという事です。

実を言うと、地球人はこの重力というものをまだほとんど理解していません。私たちはその法則をほとんど知らないのです。ニュートンの実験をもとに特定の機能を発揮する力に対してただそう名づけたというだけの事です。それが何であるかに関しては今全く分かっていないと言っています。

重力をエネルギー源にする

でも、重力は人間によって充分にコントロールされ得るものです。異星人たちは見事にコントロールしています。そして、とても有効に活用しています。彼らはこの力をエネルギーの源として、あるいはその他、実に様々な用途に用いているのです。

重力とは実にパワフルな自然の力です。そしてそれはいわゆる電氣的な力です。ちなみに、電気というものもまた私たちがまだ全く理解できていないものの一つです。この場合にもまた、私たちは特定の機能を発揮する力に対して電気という名前をつけているにすぎません。それが様々な機能を所持し、様々な形で利用できるということを知るのみで、それが何であるか、どこからやって来るのか、本質的にどうやって発生するのか、といったことに関してはほとんど知らないのです。

しかしだからといって、今後私たちがそれを永久に知り得ないということでは決してありません。今のところはまだ知らないというだけの事です。いずれにせよ、重力というものが、ある種の電氣的エネルギーであることは確かです。それ以上のことは私にも言えません。

私たちが宇宙船を作るためには——すでに私たちは作りつつあるんですが

——この重力に関する充分な知識を手にしなくてはなりません。異星人たちは、すでにこれに関する完璧な知識を手に入れています。そのため、彼らもうだいぶ前から私たちのように重力に悩まされたりすることなどは全くなくなっています。

私たちにもこの力の法則を理解できるときが必ず訪れます。そのときから私たちは——先ほどの自然の法則といっしょですが——この法則の「下」で生きるのではなく、この法則の「上」で生きることになります。この法則の「上」で生き始めたときから、私たちはこの法則の素晴らしい恩恵を、延々と手にし続けることになるでしょう。それにより、それまでは不可能だった多くのことが、可能なことへと見事に変化することになります。

宇宙に「無」はない

そもそも、この宇宙には真の意味で「無」などというものは全く存在しないのです。私たちはよく

「There is nothing. (何もない)」

という表現を用いますが、よく考えてみると、これは実に面白い表現です。私たちは「無」という「何か」が存在する」と言っているわけですからね。もしその「何か」が本当に存在しないものであるならば、こんな表現は全く意味をなさないことになります。

とにかく「無」などというものは全く存在しません。どんなところにも、そして、私たちが行なういかなる物事の背後にも必ず何かが存在しています。そして他の惑星の人々はこのことを完璧に学んでいます。

とはいえ、いかに彼らといえども、まだまだ学ぶべきことがたくさんあり、現実的に常に学び続けています。

確かに彼らはもう戦争など決して起こしません。私たちのように酒場や家で互いに殴りあったり、髪の毛を引っ張りあつたりすることなども、もはや彼らには全く無縁のことです。

しかし、彼らもまだまだ多くの問題を抱えているんです。それもそのはずです。彼らにも心あるいは頭脳の開発余地がまだ八〇パーセントも残っているんですから——。私たちは九〇パーセントですけれどね。いずれにせよ、彼らにもまだ解決すべき問題がたくさんあるのです。

しかしながら、彼らにとって問題は単に前進を果たすための起爆剤にほかなりません。問題をそのように捉えることができる段階までの進歩は充分に果たしているわけです。

そして、問題を解決する過程で、彼らも当然、間違いや失敗を起こします。しかしながら彼らにとつてそれは次に進むための素晴らしいレッスンののです。そして、二度と同じ間違いをおかしません。一方、私たちは同じ間違い

を何度でも起こし続けています。

そして、そういった姿勢を身につけているために、彼らは常に幸せを感じながら生きています。それはそうでしょう。彼らにとつて失敗や間違いはすべてレッスンのですから——。実際、その種のレッスンを経て初めて、つまり、失敗や間違いによつて初めて、人間は価値あることを学べるのです。彼らはこのことを常に認識しています。

異星人は善悪の概念を持たない

したがつて彼らは私たちが持つているような「善」と「悪」の概念を持ちません。

一方、私たちは物事を常に善と悪でとらえ、悪を破壊しようと努めています。有史以来ずっとそうし続けてきました。その結果はどうだったでしょう？ 悪を破壊することなど決してできませんでした。

私たちが行なってきたことはこういうことなのです。私たちの言う善と悪とは、一本の長い棒の両端のようなものです。そこで私たちはこれまでにその悪を破壊すべく、悪である方の端を延々と切り落とし続けてきたわけですが、ところが切つても切つてもその棒は常に両端を持っています。たとえその棒が顕微鏡で見なくては見えないほどの大きさになったとしても、その棒にはなおも両端が存在しているのです。

つまり、いくら切り落としても、善とともに悪も常に存在しているということになります。

結局、悪を破壊しようとしても、そんなことは絶対に無理なことなのです。では、どうしたらいいのでしょうか？ 破壊するのではなく、それをより良いものに変えるための努力をすればいいのです。彼らはこのことを、しっかりと学んでいます。彼らもちろん、あらゆる物事を好転させようと努力しています。しかし彼らは私たちの言う悪を破壊するのではなく、それをより良いものに変えることで物事の好転を図っているのです。破壊し得ないものを破壊しようとしたところで、時間の浪費以外の何物をも手にできません。これもまた私たちが学ばねばならないことのひとつです。

彼らが名前を持たぬ理由

それと、彼らの進化程度を如実に示すものの中に、彼らは名前を持たないという事実があります。彼らには名前を持つ必要がないのです。

これまで私は、例えば本の中などで彼らを名前で紹介していますが、それらの名前は、読者の皆さんが、特定の異星人と他の異星人とをより容易に識別できるようにとの思いで、私が勝手につけたものです（例。オーソン、ラミュール等）。

では、彼らなぜ名前を持つ必要がないのでしょうか？ 例えば皆さんは自分が今心の中に思い描いていることを、言葉を用いて私にきつちりと、そのままに伝えることができるでしょうか？ 絶対にできません。かなりうまく伝えることはできるかもしれませんが、心には描いたものと一〇パーセント同じものを、ある手段以外の手段を用いて伝えることは絶対に不可能なのです。

この問題で常に落胆を強いられているのが芸術家たちです。彼らは実際に絵を描く前に、まず心の中に理想的な色彩をほどこした素晴らしい絵を描き上げます。しかし実際に絵を描き終えたとき、彼らは目の前の絵とイメージの絵との違いを発見して大いに落胆するというわけです。心に描いたものと同じく同じ絵をカンヴァスに描くことも、まず不可能なことなのです。

しかし、もし私たちにテレパシーが使えたならば、そのとき私たちは心の絵を完璧に他の人々に伝えることができます。異星人たちはこれを応用しているのです。

ですから彼らには名前など全く必要ありません。ある人物を心の中に思い描くだけで、それが誰であるかは、一瞬にして相手に伝わることになりました。彼らはこの手段によつて互いの意志疎通を行なっているのです。名前など当然必要がないわけです。

ただし、それでも彼らは私たちと全く同じ人間であるということは絶対に忘れないで下さい。つまり、私たちにいつかは同じことが可能になるということですよ。

進歩した惑星に行きたがる人へ

さて、現在、とても多くの人々が、金星や火星などに行きたいと考えています。それは確かに、金星や火星は、この地球よりはるかに進歩した素晴らしい惑星ですが、今すぐそれらの惑星に行くことは、私としてはあまりおすすめできません。

なぜなら、私たちはまだ向こうに行かないでここにいた方がはるかに大きな喜びを得られるからです。要するに、私たちはまだ向こうに住んだり、あるいは向こうに行ったりするには未発達なのです。

逆に、彼らが地球に来ることも、とても大変なことですよ。先ほど紹介した火星人の場合も、彼の場合は地球に順応するための処置を施されてから来たのですが、それでも、とても大変な思いをしています。彼らにしても、地球で幸せに生きることがとても難しいことなのです。

（訳注）右の火星人については、本誌前号の42頁上段に述べてある。アダムスキーのこの講演会にも出席していたらしいが、誰も正体に気づいていな

いことをア氏は示唆しているようだ。私たちが向こうに行つたときに、少なくともそれ以上に大変な思いをすることは目に見えています。私たちが向こうで幸せに暮らせるようになるには、まずそれに相応しい進歩を果たさねばなりません。そのためには、まだまだたくさんさんの努力と理解が必要です。そして、自分が今いる場所で幸せを手にし得ない人間は、たとえどこに行つても決して幸せを手にはできない、という大原則を忘れないことです。

まず自分の心を変えること

人間はまず最初に自分自身の心を変えねばなりません。それによつて初めて、私たちはまわりの世界を変えられるのです。

例えば、ある父親が一日の仕事を終えて家に帰つて来たとしましよう。早くリビングルームの椅子にでも腰をかけて平安な気分になりたいと考えながらです。しかし、その父親が家に入ると、中では母親と子供たち、さらには叔父や叔母までも巻き込んだ大論争が発生していました。

そこで、もしその父親が「いったい何事だ！」などと叫びつつ、その中に割つて入り、その論争を一層盛り上げたりしたならば、それによつて彼は平和どころか激しい混乱や怒りさえも手にしてしまうことになります。

しかしもし彼が賢い男なら、家の中に入つてその論争を発見してもそんなものに加わることなく、その騒ぎを遠目に見ながら一人静かに椅子に向かい、そこにどっかと腰を下ろし、静観するという行動にでるはずですよ。

するとまもなく、そんな彼の様子に気づいた論争の当事者たちが、揃つてそーつと近寄つて来て、「いったいどうしたの？」とおそろのおそろたずねてくることになります。

そして彼らは彼の答えに静かに耳を傾けるでしょう。それによつて彼は見事に平安を手になります。

私たちも常にそういった行動を心掛けるべきです。私たちは自分の平安や幸せを自分自身の力で手にしなくてはなりません。誰もそれを助けてはくれないのです。

さて、今日の私の話が皆さんの今後の人生に、いくらかでもお役に立ち得るものであつたならば、私としてはとても幸いです。

今、私たちは宇宙空間に向かつて科学的に素晴らしい前進を遂げつつあります。このことを忘れないで下さい。

そして皆さんのグループがしっかりとした科学的基盤を保持し続けるかぎり、皆さんがカトリックであろうとプロテスタントであろうと、そんなことは全く問題ではありません。皆さんは自分の好みの人間になれるのです。(傍点は訳者による)(完)

宇宙時代のBBS誕生！ 群馬のFASA-NETが活動開始

★FASA (Fujioka Archives of Space Age) Netでは、米国から入手した宇宙関連画像ファイルを中心に扱います。

★さらにサイエンス・UFO・超能力ボードを設け、話題を提供してゆきます。

★日本GAP提供の各種情報やお知らせも掲載しております。

パソコン通信初心者大歓迎！ お気軽にご参加を

アクセス番号 ———— 0274-22-6857

Tri-Pニーモニック ———— CXFASA

通信速度 ———— 300/1200/2400 bps, MNP 5

運用時間 ———— PM9:00—AM7:00 水曜運休

プロトコル ———— N81XN

ゲストID ———— GUESTでログイン後、オンラインサインアップ可能

連絡先 = 〒375 群馬県藤岡市藤岡1462-5 原 永庫 (はら ながくら) 日本GAP会員
NIFTY SERVE ID: GBG00771

日本GAP第一四回海外研修旅行「アルジェンティン・チリ・イースター島の旅に参加して」

今回の海外研修旅行は総飛行距離四万八千キロ強という地球を一周する以上の大旅行であった。往復とも座席に縛られ、二昼夜を過ごすレッスンは苛酷であったけれども良い体験になった。久保田先生は仕事の都合で今回は参加されず、全員七名という小人数でもって、先生のお見送りを受けながら勇躍成田を出発したのは八月一三日である。

今度の旅行のポイントは南太平洋のモアイ像で有名なイースター島にある。これは参加者にとって多年の見果てぬ夢を実現させる旅であり、各自のミラ

クル・イメーজの成果であったかもしれない。

機は一一時間の飛行後、まずアメリカのグラス空港に接近したが、着陸七分前頃、不思議な雲が出現したのを河辺氏と見た。

マイアミで国際線に乗り換えて、最初の訪問地であるアルジェンティンの首都ブエノスアイレスに向かい、八時間後にエセイサ国際空港に着陸。南半球だから日本とは逆にこちらは真冬だが、現地ガイド嬢によると、前日まで寒かったが、今日は暖かいという。バスは美しいブエノス市内に向かう。

建物はすべてヨーロッパの移民の手になるもので、さながらヨーロッパへ来たかの感がある。グレコ・ローマン様式の国会議事堂前で記念撮影。

この都市にはロココ調の大統領府、メトロポリタン大聖堂、その他見るべきものが多数ある。アルジェンティンタンゴの発祥の地ボカ地区の名曲「カミニート」からつけられた一〇〇メートルほどの石畳の公園道路も歩く。

翌日は水郷地帯のティグレへ行き、遊覧船で水路を楽しむ。夜は「カサ・ブランカ」というタンゴの店で本場アルジェンティン・タンゴの醍醐味を満喫した。ダンサーの激しい動きと妖艶さを見ると、日本の社交ダンスとの大差を感じる。その店には日本人のバンドネオン奏者がおり、ダイナミックな演奏を聴かせた。

チリの首都サンティアゴのプダウェル国際空港に着いたのは、夕方の日没間元であった。こちらは肌寒くて真冬の国だ。ホテルは豪華な「プラザ・サンフランシスコ」。夕食後、外出。歩道には沢山の屋台が並んで壮観だ。

サンティアゴはブエノスアイレスと同様、一六世紀にスペイン人が植民地化した街で、混血の美人が多い。日系人は少ないが、その勤勉さと能力は非常に高く評価されているという。ここは標高五〇〇メートルの高地で、全人口の三分の一の五〇〇万人が住んでいる。博物館が多い。

現地在住のガイドさんは日本人の山岸高雄氏。チリ人の奥さんと子供さんが二人ある。この方がイースター島まで付き添った。

チリは南北に長く、幅の狭い国。したがってアンデスの山並みと海岸線に挟まれた狭い平野や丘に民家が密集している。食事は珍味の魚介類が多く、日本人の口に合う。しかしサンティアゴの市内見学は帰途にまわし、翌日、待ちに待ったイースター島行きとなる。昼の一二時に飛行機で出て五時間

島へ着いた。ツール・ヘイエルダールは役で数十日を要したが、飛行機でも五時間とは少々長い。島のマタペリ空港からマイクロバスでホテルへ向かう。イースター島は周囲六〇キロの伊豆大島程度の土地。三方の隅に休火山がある。名高いモアイ像は一〇〇〇体も

あるといわれている。

ホテル「ハンガ・ロア」は平屋で、シーズン・オフのためか宿泊客は少ない。一同と散策に出る。ホテル前の道路の下はごろごろした岩場で、すぐ海に続く。この島は玄武岩からなる火山島なので、岩場も茶色く黒ずんでいる。村へ行ってみるのに、集落はなくて、家が点在するだけ。建物の密集した町らしいものはない。人口は二二〇〇人程度で、六割がマオリ系住民。あとはチリから来た人々。食物はバナナ、レモン、タロイモ、サツマイモ、野生のグアバ等の野菜が栽培され、魚もマグロ、伊勢エビが取れるが量は多くない。私たちはここで正味三日間の観光を行う。

夜、島田氏（長崎）が持参した天体望遠鏡でUFO観測を行なうことになった。空気が澄み切っているため、南天の星座の美しさは言語に絶するものがあつた。まさに夜空にちりばめられた華麗な宝石というべきで、南十字星もひととき大きく輝いている。日本では絶対に見られないこの南海の夜空の壮観さに感動のほかない。

翌朝六時頃目覚めて、島田氏と一緒に空を見つめていたとき、六時半頃、北の方向六〇度上に点滅するオレンジ色の光体を目撃。よく見ると、一秒間隔で六く七回点滅して消えた。この時間に飛行機が現れることはありえない。UFOだったのか？

（以下次号）



▲ブエノスアイレスの国会議事堂前

エジプト・イギリス 宇宙ロードの旅

〈10日間〉

■日本GAPは過去14年間にわたって毎年夏に海外研修旅行を実施してきました。これは宇宙に思いを馳せると共に我らのホーム惑星である地球の実態をよく認識しようとの見地にもとづくもので、主として世界の謎の遺跡を訪れています。

■93年度も右の日程でエジプトとイギリスを訪問することになりました。千古の謎を秘めたギザの大ピラミッド群と大スフィンクス、その他の巨石文化の跡やイギリスのストーンヘンジは限りなく夢とロマンをかきたてます。これらは地球に生を享けた人の必見の場所です。日本GAP独特の手作りの旅は、添乗員・田中正と会長・久保田八郎が親身になってお世話するあたたかい家族的な雰囲気満ちています。会員でなくても参加できますから知人をお誘い合わせの上多数ご参加下さい。現地では優秀なガイドさんが案内いたします。

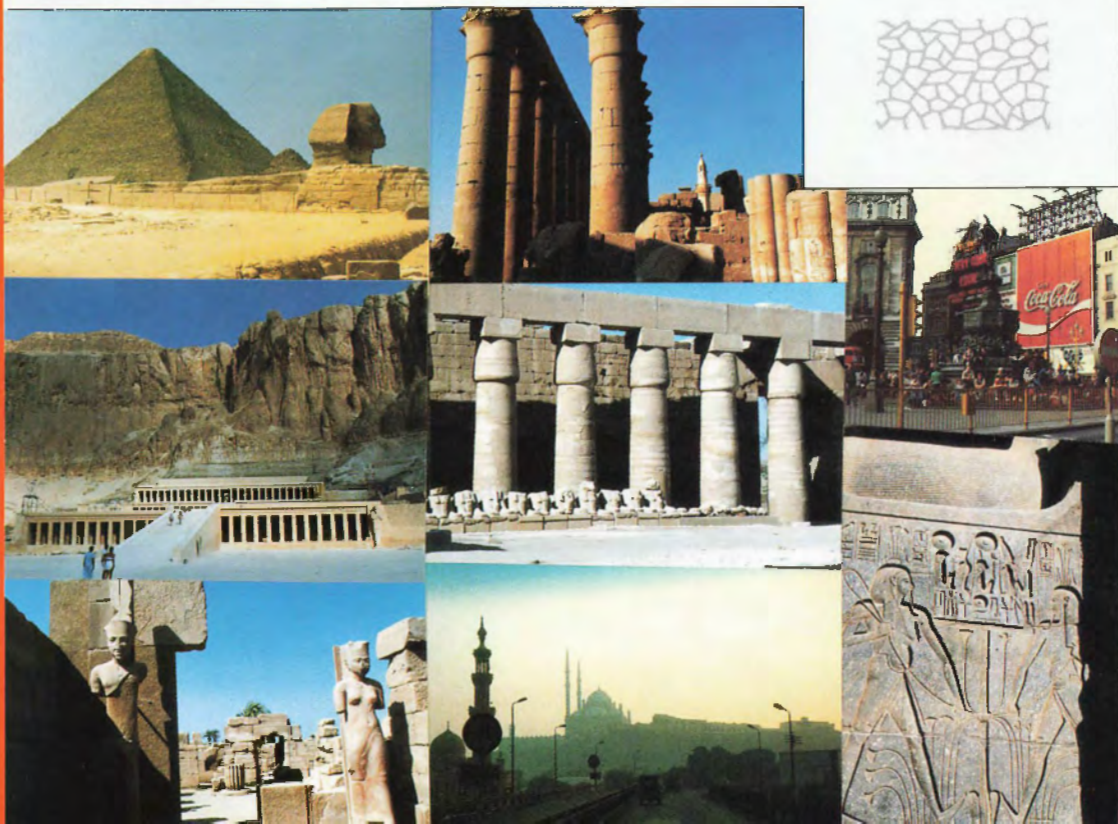
日程

1993年8月

- 13日(金) 13:55 英国航空の旅客機8便で成田を出発。同日夕方ロンドン着後、市内泊。
- 14日(土) ロンドンよりバスで南部のウィルトシャーにある古代遺跡ストーンヘンジを見学。夕方ロンドンへ帰り、市内泊。
- 15日(日) 午前中専用バスでロンドン市内を観光。午後飛行機でロンドン発、夜エジプトのカイロ着。市内泊。
- 16日(月) 午前中専用バスで国立博物館を見学。古代の凄い出土品が充滿。特に2階のツタンカーメン王のコーナーが圧巻。午後、ギザの三大ピラミッド、大スフィンクス等を視察。大ピラミッドの中へ入り、玄室まで行く。カイロ泊。夜はピラミッドの華麗な光と音のショーを見学。
- 17日(火) 午前飛行機でカイロ発。エジプト中部のルクソールへ飛ぶ。ナイル河を渡り、メムノンの巨像、壮麗なハトシェプスト女王葬祭殿、王家の谷のツタンカーメン王古墳、その他歴代の王の古墳数カ所を見学。同夜はルクソール泊。
- 18日(水) 午前中涼しい間に巨大な石柱群に満ちたルクソール神殿、カルナック神殿を見学。午後は自由行動。夜は神殿の光と音のショーを見学。同夜ルクソール泊。
- 19日(木) 午前ルクソールから飛行機でカイロへ帰着。終日自由行動。中近東最大のバザール(市場)でショッピング、その他市内散策等。
- 20日(金) 午前カイロ発、再びロンドンへ飛び、午後は自由行動。
- 21日(土) 午後ロンドンを英国航空機で出発。機内泊。
- 22日(土) 昼頃成田着。

- ★期間 1993年8月13日(金)～22日(日)
- ★費用 60万円を少し超える見込
- ★定員 30名
- ★案内書 下記へハガキでお申し込み下さい。(日本GAPでは取扱いません)
〒150 東京渋谷区東3-24-9
ワールドセプトラベル株式会社
田中正 ☎03-3499-2461
(夜間は0475-89-2039 田中宅へ)
- ★ローン 費用は24回払いローンもあります。詳細は案内書をご覧ください。
- ★説明会 第1回目 5月16日(日)
第2回目 7月26日(日)
会場その他詳細については案内書申込者に通知します。
- ★ご注意 8月は1年を通じて航空運賃が最高に上昇する時期ですから、1～2月頃の最低運賃と比較しても無意味です。この旅行は費用が極力抑えてありますので、夏のコースの旅行としては他社と比べて高くはありません。多数の参加者が予想されますので、早目にお申し込み下さい。

企画 日本GAP
主催 株式会社日本旅行
(運輸大臣登録一般旅行業第2号)
取扱い旅行代理店 ワールドセプトラベル株式会社
(運輸大臣登録旅行代理店業第1957号)



▶写真左上のギザの大ピラミッドとスフィンクス、ハトシェプスト女王葬祭殿、カルナック神殿。中上よりルクソール神殿、同、暮れゆくカイロ市内。右上よりロンドン市内レカテリー広場、ルクソールの壁面。撮影はすべて久保田八郎

Letters

ユーコン広場



心の優しい日本GAP

広島県 齋田雅則

五月のUFO観測会が雨天中止となりました事、本当に残念でした。私も広島から参加させて頂きました。が、現地に到着してUFO観測会が中止と聞きまして少々残念でした。

その日の神奈川県は雨の確率五〇パーセント、しかも大雷雨注意報が出ていましたが、朝霧高原の例もありましたので、秦野市まで行ってみようという気が起こり広島を出発しました。途中幾度も電話でUFO観測会の決行か中止かを確認しようと思いましたが、なぜか電話確認をする事なく現地まで出向いてしまいました、久保田先生を始めGAP本部役員の方々に迷惑をおかけしてしまいました。

しかしこの迷惑をおかけした事が、私にとっては大変有意義な数一〇分となりました。

まず板築台地に到着したとき、中止にもかかわらず久保田先生を始めGAP東京本部役員の方々が観測会の予定場所に来られていて、私のように確認をとらずにやってくる人達に対して、中止になった事を雨の中で丁寧に伝えられておられました。これは先生と日本GAPの心の優しさを感じて感激致しました。

有意義だったのは、観測会が中心になった事により観測場所に来た人は役員の人を含めて総勢一〇名程度

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

であり、広島のような遠くからきた人間は私くらいであったために皆さんに大変気を使って頂いた事です。そして久保田先生や本部役員の方々と会話をするチャンスに恵まれて日本GAPが身近に感じられるようになりまし。

アダムスキー哲学で大安産

千葉県 橋本由紀子

三月一〇日に無事に元気な女の子が生まれました。杏奈(アンナ)と名付けました。聖母マリアのお母さんの名からとりました。先生のお言葉通りの大安産でした。私自身や赤ちゃんの調子も良かったせいなのですが、一般にいわれるお産の苦しみというものを、ボジティブなイメージに変えて臨んだのも安産の原因でした。お産は痛くて苦しいものではなく、素晴らしい生命の刺激に過ぎないと思いついたら、痛いと思う間もなく生まれてきました。

赤ちゃんと付き合い始めてから、長年GAPにただ在籍しただけの無力で無知な自分をなおいっそう感じています。彼女とテレパシクなコミュニケーションをして宇宙的なフーリングを分かち合いたいと思います。私を母に選んで転生してきた彼女にありがとうと感謝し、ありったけの愛で祝福しながら過ごそうと

思っています。私の人生で必要な指針はアダムスキー哲学だけです。今後とも宜しく御指導ください。
▲橋本さんとアンナちゃん



不屈の信念をもつて

沖縄県 里 孝人

久保田先生の「意識の声」を読ませて頂いて改めて勇氣を持つことの重要性を感じました。先生が言われたフランスの思想家の言葉「真の勇氣とは、全世界を前にやって成し得ることを目撃者なしにやってみることに他ならぬ」それはまさにアダムスキーが言った「勇氣ある少数の人々」になることと同じ発言だと思えます。UFOの実在とアダムスキーの真実を、声を大にして社会に訴える勇氣と信念を持つことだ、と思えます。

私も久保田先生と同じように勇氣と不屈の精神でGAP活動に臨みます。どうぞ今後も宜しく御指導の程をお願い致します。

イエスとヨハネ

東京 山本益巳

ア師がヨハネであった事は古い会員の方なら御存知ですが、一見するだけでは聖書にはヨハネがイエスの十字架のそばに佇んでいた事は書か

れていないように思えます。しかしヨハネ伝をよく読んでみると、十字架からイエスが語った言葉の中にこんな言葉があるのです。
「イエスはその母と愛弟子とがそばに立っているのを御覧になって、母に言われた」

ヨハネは自身が記述した「ヨハネによる福音書」の中で、「イエスの愛しておられた弟子」あるいは「イエスの愛弟子」として登場します。このことから「イエスの十字架のそばに佇んでいた愛弟子」とはヨハネを意味しているといえるのではないのでしょうか？

この事に気付いたのはハインリッヒ・シュッツの作曲した「十字架上の七つの言葉」を聴いたときでした。この曲はイエスが十字架から切れ切れに語った七つの言葉をテキストに作曲されている「小オラトリオ」です。この作品の中でイエスは弟子に向かつてこう言っています。
「ヨハネよ、この婦人はあなたの母である。」

私はこの一言が気になって聖書を調べてみたのですが、どの福音書にもヨハネが十字架のそばに佇んでいたという事は書かれていません。ただヨハネ伝にイエスの愛弟子が佇んでいたという記述があっただけでした。

一方シュッツの作品の中に「十字架のそばにヨハネが佇んでいた」という記述がある理由は、おそらくヨーロッパではヨハネが十字架のそばに佇んでいたことが認められているからだと思えます。この事に確信が得たくて、合唱団で歌っていた時に団員でかなりインテリのカトリック

信徒の方に質問してみました。
「イエスの十字架のそばに佇んでいたイエスの愛弟子とはヨハネではありませんか？」
答えは
「そうです」

天空に想念を贈って

UFOが出現

東京 石川ハル

この四カ月間私の関心はUFOと日本GAPのことで満ちています。またいろいろと体験がありましたので御報告したいと思ひペンをとりました。

まず、三月から四月にかけてアダムスキーを読み始めてから自分の心境が随分変化してきたのを感じました。仕事で難しい問題を抱えて、この一年間は今まで経験したことのない苦しい立場に立たされました。他者への恨みや憎しみに疲れ、病んでいました。ところがアダムスキーに触れてからそれまでの苦々しい思いと思考が薄れてきたのです。「他者を許そう」とまではいきませんが、「もう済んだことだ、忘れよう」と思うようになりました。この自覚は大転機でした。

五月の連休があけると過去の苦しいことは私の心からかなり忘れかけていました。けれどと急に、人間関係がほとんど切れ無くなっていることに気がつき、寂しくなりました。夜空に向かって「友達が欲しいのです。連れてきて下さい！」と祈りました。
その夜、夢を見ました。私の知らない三人の男性と待ち合わせをして一緒にどこかに行くことになってい

ます。やがて向こうからその人達がやってきました。三人とも中年のオジサン風です。初めて会うのに、まるで古い友達のような雰囲気、フンワリと優しく、とてもソフトな感じの人達です。言葉も不要なくらいで、これからやることに對して心を合わせている、そんな夢でした。目が覚めてもなお、その人達の柔らかさと温もりが浸っていました。前夜祈ったことが天に通じたのかと嬉しくなりました。

昨夜もベランダで植物に水をやった後、いつものように天空に語りかけました。「スペースピールの方々、ここまで私をお導き下さってありがとうございます。どうか私の心が愛で満たされますように良い波動をお送り下さい。もし私の想念が貴方方に届いているなら、どうかサインを下さい」と念じました。これは毎晩私が念じる言葉です。

念じ終わるとすぐに、真っ暗な天空を右から左へ走る光の塊がありました。ポートを横から見ような形状です。建て続けに四回、サーツ、サーツと次々と光の塊が走って消えました。

あまりの驚きに心は空っぽになり、考える余裕がありませんでした。そのページエントが終わって部屋に戻ると、やがて思考力を取り戻しました。あれは絶対にUFOからのサインだったと思います。自動車のヘッドライトなら毎晩見えるはずですが、今までに無かったことです。何よりもあの光の塊にある種の「意志」を感じたのです。じつくりと喜びがわいてきました。「ついにつながつた!」と。有り難さと嬉しさで今な

お興奮が覚めません。

「UFOとつながりができたとしたら、もう私の心中の想念はお見透しである。とするともう悪いことはできない。即ち、良い想念を持つことを心がけよう。そうすればこれからの人生は明るくなるはずだ」としみじみ思いました。

偽装UFOが突然消滅

秋田県 松田(旧姓・阿部) 祥子
三月の私の結婚祝賀会では早々と祝電を頂きましてありがとうございました。また秋田支部会員の皆様、遠くからきて頂いた篠崎典子さん、佐藤政子さん、渡辺文美さん、祝電を下さいました方々、本当にありがとうございました。

まだ新生活も落ちついていませんが、空への呼びかけは毎日行なっています。昨年一二月の秋田支部UFO写真展の少し前にアパートへの帰り道に呼びかけをしていた時のことです。とてもきれいな満月を感激して眺めてから、ドアをロックする前にもう一度見上げました。するとなんとその満月がそこに無いのです。UFOが月に化けたのでしょうか。びつくりしました。その偽装UFOを見る前にも何度か光体を見ていました。とてもすばらしい出来事でした。

それから私達は想念の使い方を日々の生活を通して学んでいるんだなと最近改めて感じています。ですからいろいろな体験を積んで、否定的だと思える日々の出来事からも想念の使い方を学ばなければと思っています。九月には支部大会も予定しています。先生に御目にかかれるのを楽しみにしております。

光の性質について

沖繩県 石野創太

私は現在大宇宙冥想、自然の研究、想念観察、「生命の科学」の研究をやっています。特に大宇宙冥想をやるようになってからお腹の調子がとても良くなっています。

「光は波動であるとも粒子であるともいえるが、根本的に波動である」ことを考えてみます。これはまず根本的な波動があつて、その二種類の表面的な現れとして副次的に波動と粒子が出てくる、ということだと思います。そしてその三者のいずれをも我々は光輝として感じているはず。そうでなければそれらを光と呼ぶことはできないからです(ただし、そのうちの二つは我々が敏感になつたときのみ感じる光輝であるかも知れません)。第二に、まず根本的な波動があつて、それから表面的な波動が生じて更に粒子としての光を生み出すのではない、といえます。なぜならその場合スペース・ピールは単に「光は波動である」とのみ断言するはずだからです。従つて、根本的な波動が表面的な波動と粒子を並列的に生み出すのです。第三に、秋山さんの言及した磁気単極を媒質とする光が、この表面的な波動であるといえます。というのは、

もし根本的な波動が磁気単極を媒質とするなら、光よりも磁気が根源的な存在になつてしまうからです。光は全ての根源であるはずです。よつて磁気単極を媒質としているのは表面的な波動であり、一方根本的な光の波動は電気や磁気をも生み出しています。電荷や磁荷の周囲にある電

界や境界は、根本的な光によって構成されているのです。以上が現在までの進展です。

質問

宮城県 匿名

私はUFOへのテレパシーによる呼びかけを始めて三カ月目くらいから「光体」を見るようになりまして以後一カ月も少なくとも二、三回は目撃しています。しかしいつも夜空をスツと横切るだけで、何の進展もありません。これにはどういう意味があるのでしょうか。まだ毎日呼びかけを続けていますが、これからのようにすすめたらよいか、アドヴァイスをお願いします。

回答(久保田二郎)

とにかく忍耐強く続けることです。二年でも三年でも一〇年でも……。続けることが最強力なパワーとなります。そうすれば、いつか素晴らしい結果が出てくるでしょう。「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」これを徹底的に実践することです。この言葉は何を計画するにしても重要な法則です。

ユーンンの素晴らしさ

匿名

私は中年の主婦でございますが、先生のUFOcontacteeを楽しく拝見させて頂いております。この専門誌のカラー写真の美しさ、配置のセンス、本全体、紙質の良さ等、真心が伝わって来ます。

思い返せば二〇代の頃本屋で「UFOと宇宙」誌と出会い、それ以来目につくことばるやうに読んでおりましたが、いつのまにか出版され

なくなり、非常に残念でした。しかし私の心の中にしっかりとこの思いが刻まれる事になりました。二年ほど前ある本にて「UFO研究者へのアンケート。日本を代表する九名の回答集」において、その中で久保田先生の御答から、目立ちませんが一番誠実な印象を受けたので、これだ!とひらめきました。その結果、実にその通りでした。あとで知りましたが「UFOと宇宙」も先生が出版されていたとの事で、なにか目に見えない強い不思議な力を感じていた訳です。

現在、アダムスキー全集を少しづつ私なりに勉強させて頂いておりますが、宇宙の方々の高次元な哲学に少しでも近づき私自身も吸収できれば良いかと常々思います。現代の使い捨ての物質文明、欲望とエゴの世界、自然の破壊、人間以外のものに対する思いやりの無さ……。これから先私達人間が一人一人どう生きていくべきかをよく考え直し、正しい道へと歩んで行かねばならないと感じます。

先生が今までのいかに大変な御仕事をなさって御苦労があつたかを少しでも私なりに感じることができました。御活躍を御祈りしております。

本誌二一七号に感動

沖繩県 照屋典子

私は本誌二一七号を読んで、すごく感動し、もっと早くこの本に出会っていたらなあと思ひました。とりあえずアダムスキー全集も読んで、今までの私の考えがひっくり返つたというか変わってきました。どうもありがとうございます。

本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷺見 弘
UFO・異星人・地球人(1)——G. アダムスキー
天地万物との一体化で長寿——塩屋信男

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現/
地球救済活動を続ける異星人(2)——秋山真人
飛行機を助けた謎のUFO——
奇跡を起こす反復思念とイメージ法——久保田八郎
善だけを探し求めてテレパシーが発現——小川隆志
ひとりて物品が動く現象——大嶋順子
思いどおりに出現するUFO——中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人(完)——アリス・ボマロイ

No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動を続ける異星人——秋山真人
南フランスの不思議なコンタクト事件——中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法——テッド・オーウェン
病気治療の宇宙哲学的応用——高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ——久保田八郎
江東区上空のUFO——森田久恵
南九州支部からの声——曾我部勇人
ブラザーズに助けられた？——藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人——アリス・ボマロイ

No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相——ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見/
28年ぶり宇宙からの帰還1?——
突然消滅した10人の少年少女/
暗闇から現れた不思議な人々——服部哲雄
円筒型の奇妙な物体を見る——
謎の飛行物体、米子に出没——斎藤俊徳
UFOの色彩についての一考察——久保田八郎
UFOと古代マヤの謎——

No.114 平成3年7月25日発行 ¥900

日本GAP全国ネットワークテレパシーコールUFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景——松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン——高木 澤
奇跡を起こす思念の力——遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た/
タパヌイの謎の大爆発——ジャン・バジャック博士
アダムスキーの主張は正しかった——ダニエル・ロス

No.113 平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件——久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則——ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験——中村省三
オーラ透視力開発法——遠藤昭則
壁面の奇跡——永山穂恭
江戸川区上空の巨大UFO——北館博子
クリスマス前のUFO出現——伊藤芳和
私のUFO目撃体験——平井沙織
UFO・宇宙からの完全な証拠(完)——ダニエル・ロス

No.112 平成3年1月25日発行 ¥900

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった/
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
高度に進化した金星人の実態(完)——G.アダムスキー
<写真>金星の不思議なスジ模様——
青森県に頻発するUFO出現事件——
UFO・宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.111 平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態——G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ——久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ——番場博次
松本市にもフットボール型UFO——茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤——堀江健一
私のテレパシクな不思議人生——郡司典子
UFO・宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.110 平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記——藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話——向井 裕
アメリカGAP発足/(完)——ダニエル・ロス
UFO・宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.109 平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続——G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現/
デザートセンター円盤着陸事件(2)——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山真人
「アメリカGAP」発足/
UFO・宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.108 平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
超能力開発の新しい視点——秋山真人
潜在意識としてのDNA——N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た——小瀬村美美子
私についてきた光るUFO——郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根 豊
ロイよ、来て助けておくれ/
UFO・宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.107 平成元年10月25日発行 ¥900

テレパシー開発法とUFOの実態——G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
私はペルーでUFOを見た——富岡毅子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完)——向井 裕
超能力開発の基礎レッスン——斎藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

No.106 平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号——G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人②——向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法——久保田八郎
ヒーリングとテレパシー——遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察——N.H.M.D.
UFO・宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

有終の美を飾る今年度最後の支部大会へ集合!

第5回長野支部大会

長野支部はまたも意欲を燃やして第5回目の大会を開催します。今回は参加しやすい2連休の初日(日)に塩尻市で久保田先生の素晴らしいセミナーを行ない、夜は愉快的夕食会を楽しみます。翌日(祭日)は貸切りバスで晩秋の木曾路めぐりという豪華版。関東地方からも気安く行けるルートです。観光を兼ねて多数ご参加下さい。人情厚い信州人一同、心をこめて歓待致します。

長野支部代表 博田文喜ほか一同

日時 1982年11月22日(日) 午後1:00-4:30

会場 「ヘルスパ塩尻」1階研修室

長野県塩尻市大門1番町1-1 ☎0263-54-3939

JR塩尻駅より徒歩5分、中央道長野線塩尻インターより約10分。

東京からは新宿駅9:00発中央本線特急「あずさ7号」(塩尻11:44着)か、または新宿駅10:00発「あずさ9号」(塩尻12:37着)が手頃。夕食会に出席後、東京へ日帰り可能。

会費 ¥2500 (全員記念写真希望者は¥1000を別納)

—プログラム—

司会 石川公一

1:05 支部代表挨拶

1:15 講演・久保田八郎日本GAP会長「アダムスキー問題と人間開発法」

3:00 全員記念撮影・休憩

3:30 全員自己紹介・質疑

4:30 閉会

夕食会 6:00-8:00 (希望者のみ)

会場 ホテル中村屋の孔雀の間

会費 ¥6000

宿舎 ホテル中村屋 ☎0263-52-1300

塩尻市大門8番町4-21

シングル泊約¥7500(朝食付き) ツインなし

観光 11月23日(祭日) 参加費¥2500

晩秋の美しい木曾路を貸切りバスで周遊。江戸時代にタイムスリップしたような錯覚を起こさせる妻籠(つまご)、馬籠(まごめ)宿など、情緒豊かな宿場町を見ながら、明治の文豪島崎藤村記念館(生家)等の見学とともに木曾路の景勝地を存分に楽しみます。ご期待下さい。

申込

夕食後、宿舎、観光を希望される方はハガキで下記へ11月7日までに(必着)お申込み下さい。

当地にはホテルが少ないため、申込みは早い方が有利です。

〒399-07 長野県塩尻市広岡吉田948-4

博田文喜 ☎0263-58-8510

備考

11月の月例会は大会と兼ねることにして中止します。



ヘルスパ塩尻

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

—— 全面改訂・改訳 全10巻 ——

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 ①104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた / UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔 /

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との全見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心靈現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊!

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実態と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。A氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンズ・ビーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバシル・バン・デン・バーグらの証言が白熱。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 282頁・定価1300円

壮大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの1人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気象UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

新刊！ 全国書店で絶賛発売中

UFO・遭遇と真実

四六判・264頁
美麗カバー付

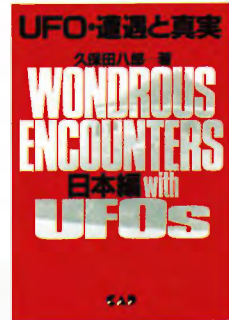
★久保田八郎著

¥1,500 送料 250

かつて本誌に掲載された驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろし読みやすく編集した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を遙かな惑星群に誘う稀有の保存資料です。

〈内容〉

- ①関東大震災中に人々を救出した円盤（横浜の世にも珍しい大事件）
- ②東京タワーから目撃されたUFOと搭乗員（東京の素晴らしい目撃体験）
- ③超低空に降下した円盤と、手を振る異星人少年（高松市の驚異的事件）
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景（上富良野の仰天現象）
- ⑤UFOに乗ってエジプトまで飛んだ少年（松山市の物凄い事件）
- ⑥熱烈な願いに応じて出現したUFOを撮影（東京でのテレパシー体験）
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型UFO（尾道市の偶発事件）
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星へ行ってきた！（秋山眞人氏の超絶的体験）



■書店で品切れの節は下記へ郵便振替か現金書留で直接ご注文下さい。

中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル ☎03-3561-7017 振替・東京8-66324

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金到着後払いで直送します。

英文版「UFO contactee」No.8

発行 日本GAP

B5判/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥175/3冊まで¥250

世界のUFO研究界で絶賛をあびている英文版ユーコン誌は、いまや各国の研究団体や個人研究者から注文が殺到、ロシアや南太平洋のフィーダーあたりからも問い合わせがあるほどです。これは、小冊子ながら内容はきわめて重要な情報に満ちており、他に類似専門誌がないからです。No.8は「イエスの実像と転生の法則」の英訳、アダムスキーの講演、その他の記事、写真を満載。英語学習用にも最適。ぜひお求め下さい。（ただしNo.1～No.3は品切れです。）

編集後記

◆本号はUFO観測特集としました。実際には凄い目撃事件が世の中にはあるのですが、本人が表面に出たがらないために、むなしく埋もれているケースが多々あります。

◆「私の超能力開発体験と異星人女性との出会い」もまた興味深い内容です。一〇年一日のごとき不断の開発練習が最大の良策といえるでしょう。考えさせられる記事です。

◆「瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快」は筆者が全力をあげて書き綴った美しい夫婦愛とミラクル・ヒーリングの素晴らしい体験記です。これを偶然の結果だという人は、それなりの人生をすごすようになるでしょう。すべてを偶然の不可抗力とみる人生です。

◆八月と九月は日本GAPの地方支部大会が開催されて多忙でしたが、爽りある夏を過ごしました。一月二二日には長野支部大会があります。多数ご参加下さい。

◆アダムスキーの連載記事がまた次号から始まります。編者は最近、ア氏が存命中にアメリカ各地で行なった多数の講演の英文講演録を入手しました。これは膨大なもので、今後連載し続けても一〇年間では終わらないほどあります。素晴らしい内容に満ちていますので、ご期待下さい。

◆UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。

◆本誌は多数のヴォランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP機関誌・季刊 冬季号
UFO contactee 118p

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒113東京都江戸川区本一色1-12-1-511

☎03-3665-1109 558

振替 東京4359112

一九九二年一月二五日発行

定価九二七円（本体九〇〇円・送料210円）

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

平成4年度
日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※11月のみは会場を6階67号室に変更。 平成5年2月のみは11日(祭)に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会 場 費 ¥1000 セミナー 受 講 料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=5月より『生命の科学』 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1~10月=「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国直 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、月例会を休会。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月月例会の前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具志川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※11月のみは支部大会のため月例会は中止。	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※今年2月より月例会を再開。日時と会場については小川宛問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場を11月より変更。	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-3252	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、関宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上
IZU(伊豆)支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※月例会は9月より開催。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上



オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料 ¥ 120



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。9.3cm×8.8cm。

¥500 送料 ¥ 62



ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カード各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯するのに便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥900 送料 ¥ 120 (2~5個 ¥ 175)



テレフォンカード

日本GAP特製のテレフォンカードの第5弾。今度はアダムスキーの原書からオーソン氏のスケッチを取り入れました。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターで会見した金星人の姿を目撃者のアリス・ウェルズ女史がスケッチしたものです。

¥1,500 送料10枚まで ¥ 62



GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして制作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料 ¥ 120



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで ¥ 120



ブックカバー

新アダムスキー全集のカヴァー用に作られたものですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも利用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」という意味の英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料 ¥ 175 5枚まで ¥ 250

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。黒地のため黒カバンや黒い物に最適。色物の品物にも似合います。

¥200 送料10枚まで ¥ 62



新アダムスキー全集★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!!★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。ハガキでご注文下されば代金あと払いでお送りします。(電話によるご注文はご遠慮下さい)

申込先

住所、氏名、電話番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに品名個数をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当方へ到着す

るまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替・東京4-35912 ☎03-3651-0958



日本GAP能力開発テープ

●日本GAP東京月例会セミナー
毎月開催される日本GAP東京月例会セミナーから、久保田会長の解説講義と質疑応答その他の録音したもの。これを聴けば絶対な信念と勇気がわきおこり、人生の荒波に屈することなく堂々と前進できます。

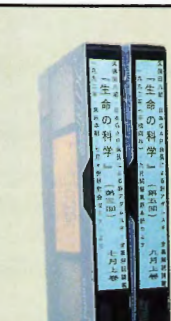
●テープ① ¥1,300 送料 ¥ 175
〈内容〉 会員講演、久保田会長による新アダムスキー全集の解説講義。近況報告。

●テープ② ¥1,000 送料 ¥ 175
〈内容〉 超能力開発練習。質疑応答。
※①②一括ご注文の場合は送料 ¥ 250
※1990年以前のバックナンバーもあります。往復ハガキでお問い合わせ下さい。

●1991年度日本GAP総会
2巻セット ¥3,900 送料 ¥ 250
〈内容〉 ハンス・ピーターセン氏 他。

申込先

申込先「品名」「〇年〇月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替・東京0-162644 ☎03-3653-9387



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京月例会セミナー 全1巻 ¥4,000
〈内容〉 久保田会長の解説講義。他。約120分。
(1990年12月分から在庫有)

●日本GAP総会 全2巻 各¥3,000
〈内容〉 毎年の日本GAP総会を完全収録。
(1989年度分から在庫有)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3,000
〈内容〉 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。
(1989年度分から在庫有)

●デンマークGAP大会 全2巻 各¥3,000
久保田会長の講演(英語)、他。英文のテキスト(和訳付)もついているので英語学習にも好適!

下巻=美しいデンマークの探訪記録。
送料はいずれも1本¥360、2本¥510。

申込先

「品名」「〇年〇月分」「上・下巻」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒162 東京都新宿区富久町36-18 憲久マンション103
伊東芳和 振替・東京4-13811 ☎03-3351-9526

先着500名様限り

サジェストロニクス

超高速英語学習テープ 無料進呈

テストテープ (C-30デジタル録音)

●「短期間に英会話マスターしたい」、「ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい」、「案外早くしゃべれる英語を身につけたい」、「英語が身についてしまおう」、「ブルガリア出身のバルサコ博士の手になる超高速学習テープ」がアメリカからやってきました。

●日常英会話シリーズの試聴用テストテープ(デジタル録音C-30)をこの広告をご覧の方、先着500名様には今すぐ下記の住所までおハガキ、お電話で下さい。

サジェストロニクス・ラーニングテープは、モーター、パワハビングテープ等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特別をうけた教育ナレーションの専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙なハーモニーをかし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な学習テープ。

●「歌の歌詞を覚えるように自然に頭に入っていく」、「何處まで自然に聞こえる」、「BGM感覚で、心地よく苦痛がないに聴ける」というのがこのテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収していくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

下記までおハガキ、又は電話で試聴用テストテープ希望」と明記してお申込み下さい。詳しい案内書とテストテープの引換商品券をお送りします。

お好みのサブミナルテープ®を1本(60分テープ) デジタル録音 無料進呈!

先着250名様限り

- 下のテープの中から、お好みのテープを選んで下さい。
- 「自分の能力への自信の強化」
 - 「自分の可能性への確信」
 - 「ビジネス能力開発への意欲」
 - 「本来の自分を取り戻す」
 - 「自分自身への自信」
 - 「人間関係の苦手意識の克服」
 - 「人間の魅力を養う」
 - 「自分の魅力に気づく」
 - 「女性への緊張感の除去」
 - 「男性への緊張感の除去」
 - 「偉大な成功へのイメージを描く」
 - 「幸運な人生をめざす」
 - 「経済的成功への自信」
 - 「充実した人生獲得への自信」
- (詳しくは、お届ける案内書をご覧ください。)

サブミナルテープ®の美しい音楽をBGMとして聴くだけであなたの人生が変わる!



女優 吉川十和子
「人間の種々の可能性を切り開いてくれる、使いごたえのあるテープだと思います」



俳優 辰巳琢郎
「おいしい話であるもんで、楽しみながら能力開発できるなんて。サブミナルテープ! 万才」

サブミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果」をもたらす「耳に聴こえない周波数」に変換された心理的メッセージを同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベーシックテープ引換券」と同時に「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。



先着250名に無料テープ進呈!



先着300名に無料テープ進呈!

自己開発講座

あなたば、自分が思っている以上にすばらしい人間になれる!

●仕事やいろいろな人間関係が思い通りに!!

●自分の個性や魅力パワーや行動力が100%発揮できるように!!

恋愛やいろいろな人間関係、それに会社での仕事も、自分の持っている個性や魅力、そしてパワー、行動力を最大限に発揮すれば、すべて思い通りにゆくもの。しかしほとんどの人が自分の生れながらにして持っているこれらの要素を潜在意識レベルでブレーキをかけて80~90%を殺しています。(日本人は特にこの傾向が強い。)このブレーキをとり除いてやると、自分でもビックリするくらい力を発揮できるようになります。すばらしい個性と魅力パワーに満ちあふれた「本当のあなた自身」を発見し、恋愛や仕事を始め、人生のあらゆる分野で思い通りに事を進められる「人生の達人」に生まれ変わってみませんか?

この広告で案内書請求された方、先着250名に潜在的な個性や魅力を引き出すための「ポテンシャルウエイクアップ」一本の商品引換券を進呈中!

お申込みは下記までおハガキ、又はお電話で!

この広告で案内書請求された方、先着300名に潜在的な個性や魅力を引き出すための「ブレイン・テイハロツフメントテープ」一本の商品引換券を進呈中!

お申込みは下記までおハガキ、又はお電話で!

各種試験の合格・仕事の成功・スポーツ等での能力発揮——これらのキメ手は、「集中力」。この講座は、誰もが潜在的に持っている爆発的集中力をあらゆる分野で最大限に発揮できるように、アメリカで開発された画期的講座です。集中力開発のための各種トレーニング法や脳波コントロール法等を最大成した、誰でも簡単に無理なく「集中力」の天才になれる講座です。

「集中心力」。この講座は、誰もが潜在的に持っている爆発的集中力をあらゆる分野で最大限に発揮できるように、アメリカで開発された画期的講座です。集中力開発のための各種トレーニング法や脳波コントロール法等を最大成した、誰でも簡単に無理なく「集中力」の天才になれる講座です。

〈製作・監修：カリフォルニア・ヒューマンテクノロジー社〉

希望

41 郵便はがき 107

東京都港区南青山 2-19-24

アスカライフ社 1-752係

希望

●住所

●氏名

●電話番号

●年齢

●職業

無料ベーシックテープ・超高速英語学習・集中力開発講座・自己開発講座をご希望の方は

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、「無料ベーシックテープ案内書と商品券希望」、「無料テストテープ希望」、「無料テープと集中力開発講座無料案内書希望」、「無料テープと自己開発講座無料案内書希望」と左記までおハガキ、又は下記までお電話でお申込み下さい。(今回の申込みでお届けしたテープ・案内書の返品の義務や商品購入の義務は全くなりませんので安心してお申込み下さい。)

お電話でのお申込みは 0120-363-002 受付時間AM8~PM23 (日・祝日も受付中)